

目次

目次	1
1.1 ご使用前の感謝の言葉	4
1.2 当マニュアルの特徴	5
1.3 安全上のご注意	5
2章 当マザーボードの紹介	6
2.1 マザーボードの外観はどんな様子?	6
2.2 製品仕様	7
2.3 ブロック図	8
3章 ハードウェアのインストール	9
3.1 インストール手順の概要	9
3.2 インストールに必要な情報	10
CPUのインストール	10
CPUおよびシステムファンのインストール	11
メモリモジュールのインストール	12
IDEおよびフロッピーケーブルの接続	13
ATX電源ケーブルの接続	14
フロントパネルケーブルの接続	15
3.3 他のインストール参照情報	16
CPU電圧およびクロックの設定	16
Serial ATAの接続	17
ハードディスク設定の調節	18
AGP 8X拡張スロットへの接続	19
IrDAの接続	20
10/100/1000Mbps LANをサポート	21
USB2.0の接続	22
1394の接続 (n250a-FRのみを対象)	23
S/PDIFの接続	24
高性能5.1チャンネルオーディオ機能	25
フロントオーディオの接続	26
ゲームポートの接続	27

CD_INの接続.....	28
AUX_INの接続.....	29
ケース解放センサコネクタ.....	30
カラーコード対応後部パネル.....	31
LED表示.....	32
3.4 ジャンパ設定.....	33
4章 特別な機能およびユーティリティ.....	36
RAID (Redundant Array of Independent Disks).....	36
RAID設定ユーティリティ.....	36
Silicon Image SATARaid GUIの概要(n250a-FRのみ).....	37
SilentTek – ノイズが消えた!.....	38
その他の便利な機能.....	41
5章 BIOSの設定.....	42
紹介.....	42
Phoenix-Award™ BIOSセットアッププログラムの使用方法.....	43
BIOSセットアップの起動方法.....	43
Windows環境でのBIOSアップグレード environment.....	44
WinBIOSユーティリティ (n250a-FRのみ).....	46
Vivid BIOSテクノロジー.....	48
6章 ドライバのインストール.....	49
6.1 ボーナスCDからのオートランメニュー.....	49
6.2 NVIDIA Windows nForceドライバのインストール.....	50
6.3 NVIDIA NvMixerドライバのインストール.....	50
6.4 Gigabit LANドライバのインストール (n250a-FRおよびn250a-L用).....	51
6.5 n250a用のLANドライバインストール.....	51
6.6 USB2.0ドライバのインストール.....	52
6.7 NVidia SATA RAIDドライバのインストール.....	52
6.8 Silicon Image 3114 SATARaidドライバのインストール(n250a-FRのみ).....	53
6.9 Silicon Image 3114 Java SATARaidユーティリティのインストール(n250a-FRのみ).....	57
6.10 JAVA 2 Runtime Environmentのインストール (n250a-FRのみ).....	57



7章	トラブルシューティング.....	58
8章	テクニカルサポート.....	59
	型式名およびBIOSバージョン.....	60
	お買上げのマザーボードの登録.....	60

1.1 ご使用前の感謝の言葉

まずはじめに、AOpen製品をお買上げいただきありがとうございます。当マザーボードは当社の強力な製品設計技術およびたゆまぬ品質向上の努力により、ユーザー皆様の個々のニーズに応えるよう設計されています。

当マニュアルでは、マザーボードのインストール方法が紹介されています。今後のご参照にきちんと保管してください。印刷物を紛失しても、当社ウェブサイト <http://www.aopen.com> から更新されたファイルをダウンロードすることも可能です。

それでは、このユーザーフレンドリーなマニュアルをご覧になり、AOpen製品に装備されている強力な全機能をご堪能ください。

AdobeおよびAcrobatのロゴは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonおよびDuronのロゴは、Advanced Micro Devices, Incの登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIおよびPentium 4のロゴは、Intel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴは、nVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴは、米国およびその他の国のMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアル中の製品およびブランド名は全て、識別を目的として使用されており、各社の登録商標です。

当マニュアル中の製品仕様および情報は事前の通知なしに変更されることがあります。当マニュアル内容の変更および改訂の権限はAOpenにあります。マニュアルおよび製品上の誤りや不正確な記述については、AOpenは保証を負いかねます。

この出版物は著作権法により保護されています。全権保留。

AOpen社の正式書面による許可がない限り、この冊子を如何なる形式や方法でもデータベースや記憶媒体に複製することはできません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. All rights reserved.

1.2 当マニュアルの特徴

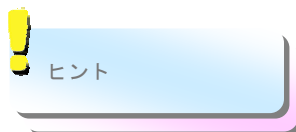
T当マザーボードの役立つ情報を把握し、知っておく必要のある特定の状況を示すため、下記のアイコンがしばしば用いられています:



組み立ての過程で知っておくべき情報や、役立つヒントが記されています。



このマークを見つけたら特に注意してください。インストール途中で起きる間違いや、注意事項が説明されています。



このヒントにはインストールを容易にする幾らかの役立つ情報が記されています。

1.3 安全上のご注意



コンポーネント取扱いの前にリストストラップを装着し、システムユニットの金属部につないでください。つなぐ場所は地面または金属面に接する部分でも代用可能です。



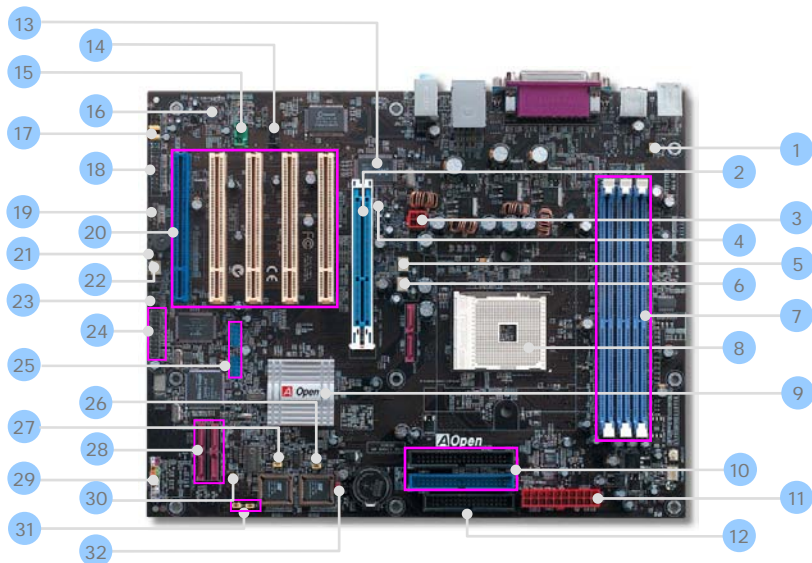
ジャンパー設定の際はいつでもまず電源プラグを抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントのインストールまたは取り外しの際には、電源を外してマザーボードやその他のコンポーネントの損傷を防止してください。

2章 当マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外観はどんな様子?

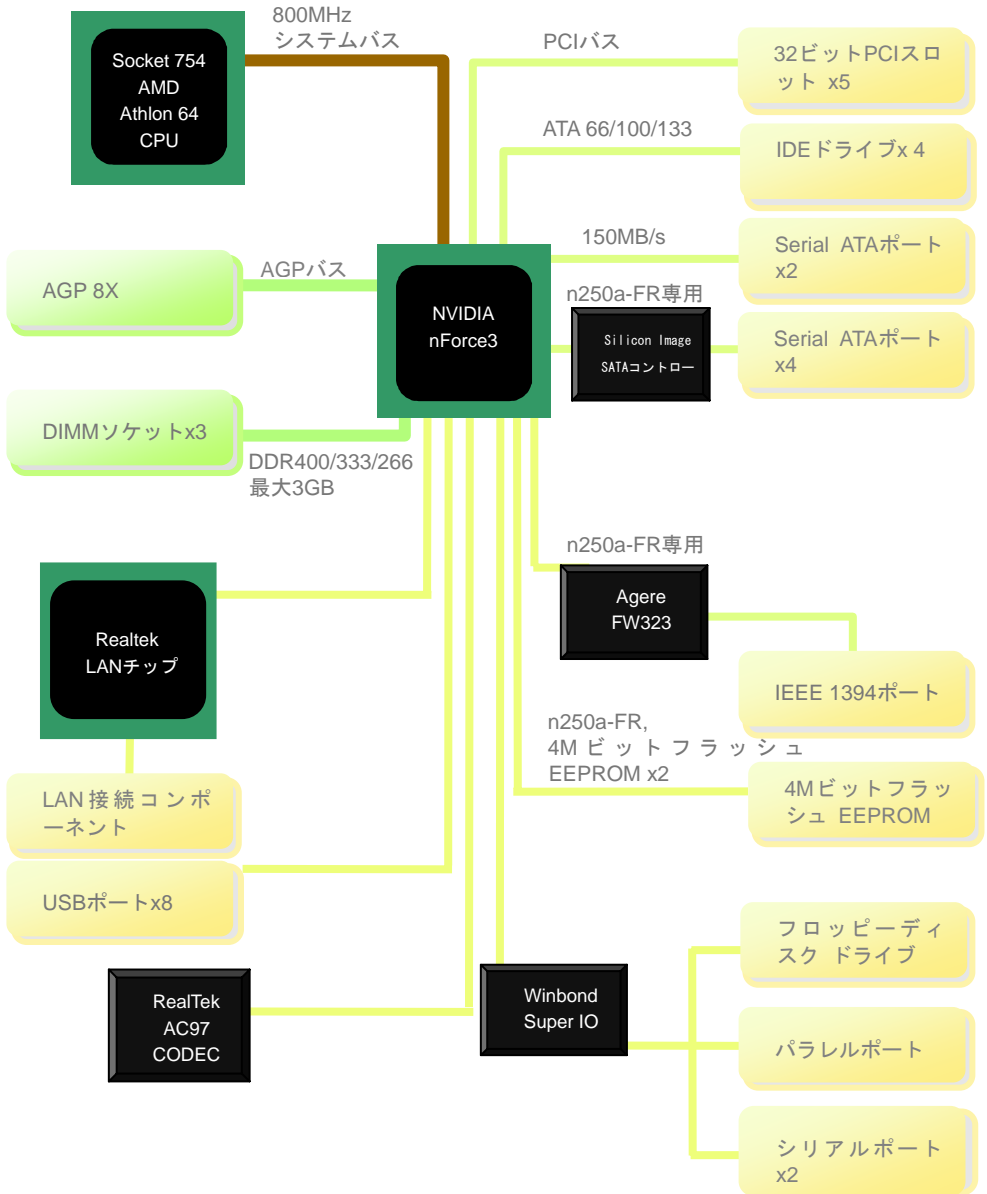


1. JP28 PS2 KB/マウスウェイクアップジャンパ	17. フロントオーディオコネクタ
2. AGP 8X拡張スロット	18. ゲームポートコネクタ
3. 4ピン12V ATX電源コネクタ	19. S/PDIFコネクタ
4. AGP保護LED	20. 32ビットPCI拡張スロットX 5 (スロット5: 独自電源PCIスロット、n250a-FRのみ)
5. CPUFAN コネクタ	21. ケース解放コネクタ
6. SYSFAN1コネクタ	22. SYSFAN2コネクタ
7. 184ピンDIMMs X 3	23. IrDAコネクタ
8. 754ピンCPUソケット、AMD™ Athlon™ 64 CPUをサポート	24. IEEE1394コネクタX 2 (n250a-FRのみ)
9. NVIDIA nForce3チップセット	25. USB2.0コネクタX 2
10. IDEコネクタx 2	26. JP25 BIOS保護ジャンパー(n250a-FR用)
11. ATX電源コネクタ	27. JP24 BIOSレスキュージャンパ(n250a-FR用)
12. FDDコネクタ	28. Serial ATAポートX 6 (n250aおよびn250a-LではSerial ATAポートx4)
13. Realtek LANチップ	29. フロントパネルコネクタ
14. CD-INコネクタ	30. JP2スピーカー出力ジャンパ (n250a-FR用)
15. AUX-INコネクタ	31. JP15, 16 Dr. Voice II言語設定 (n250a-FR用)
16. オンボードAC'97 CODEC	32. JP14 CMOSデータクリアジャンパ

2.2 製品仕様

モデル名	n250a-FR	n250a-L	n250a
CPU	AMD Athlon 64 CPU Socket 754 800MHz	AMD Athlon 64 CPU Socket 754 800MHz	AMD Athlon 64 CPU Socket 754 800MHz
チップセット	nForce3 250	nForce3 250	nForce3 250
メインメモリ	DDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 3 DIMMタイプ: 64/128/256/512MB & 1GB 最大メモリ: 3GB	DDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 3 DIMMタイプ: 64/128/256/512MB & 1GB 最大メモリ: 3GB	DDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 3 DIMMタイプ: 64/128/256/512MB & 1GB 最大メモリ: 3GB
Graphics	8X AGPスロット	8X AGPスロット	8X AGPスロット
IDE	ATA133およびSerial ATAコントローラ内蔵 Silicon Image Serial ATA コントローラチップ [RAID 0,1,0+1をサポート] 最大ディスク容量: 144,000,000GB [48ビットLBA仕様の場合]	ATA133およびSerial ATAコントローラ 最大ディスク容量: 144,000,000GB [48ビットLBA仕様の場合]	ATA133およびSerial ATAコントローラ 最大ディスク容量: 144,000,000GB [48ビットLBA仕様の場合]
LAN	Realtek Gigabit LAN コントローラ, 10/100/1000Mbpsをサポート	Realtek Gigabit LAN コントローラ, 10/100/1000Mbpsをサポート	Realtek 10/100Mbps LAN コントローラ, 10/100Mbpsをサポート
サウンド	Realtek AC'97 CODECオンボード, 5.1チャンネルをサポート	Realtek AC'97 CODECオンボード, 5.1チャンネルをサポート	Realtek AC'97 CODECオンボード, 5.1チャンネルをサポート
USB	USB 2.0 x 8	USB 2.0 x 8	USB 2.0 x 8
IEEE1394	Agere 1394コントロールチップ内蔵		
スロット	AGP x 1 PCI x 4, 独自電源PCI x 1	AGP x 1 PCI x 5	AGP x 1 PCI x 5
後部パネルI/O	PS/2キーボードx 1, PS/2マウスx 1 USBポートx 4, LANポートx 1, COMポートx 2, プリンタポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, MIC入力x 1	PS/2キーボードx 1, PS/2マウスx 1 USBポートx 4, LANポートx 1, COMポートx 2, プリンタポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, MIC入力x 1	PS/2キーボードx 1, PS/2マウスx 1 USBポートx 4, LANポートx 1, COMポートx 2, プリンタポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, MIC入力x 1
オンボードコネクタ	フロントパネルx 1 フロントオーディオx 1 CPUファンx 1,システムファンx 1,ケースファンx 1,電源ファンx 1, 電源温度コネクタx 1 SmartEarコネクタx 1 ケース解放センサコネクタx 1 S/PDIFコネクタ x 1, CD_IN x 1, AUX_IN x 1 IrDA x 1, Gameコネクタ x 1 IEEE 1394 x 2, USBポートx 2 USB コネクタx 2	フロントパネルx 1 フロントオーディオx 1 CPUファンx 1,システムファンx 1,ケースファンx 1, 電源ファンx 1, 電源温度コネクタx 1 ケース解放センサコネクタ x 1, IrDA コネクタ x 1 S/PDIFコネクタ x 1, CD_IN x 1, AUX_IN x 1 Gameコネクタx 1 USBコネクタx 2	フロントパネルx 1 フロントオーディオx 1 CPUファンx 1,システムファンx 1,ケースファンx 1, 電源ファンx 1, 電源温度コネクタx 1 ケース解放センサコネクタ x 1, IrDA コネクタ x 1 S/PDIFコネクタ x 1, CD_IN x 1, AUX_IN x 1 Gameコネクタx 1 USBコネクタx 2
BIOS	Award PnP 4MビットフラッシュROM BIOS x 2	Award PnP 4Mビットフラッシュ ROM BIOS	Award PnP 4MビットフラッシュROM BIOS
ボード寸法	305 mm x 244 mm	305 mm x 244 mm	305 mm x 244 mm

2.3 ブロック図



3章 ハードウェアのインストール

3.1 インストール手順の概要



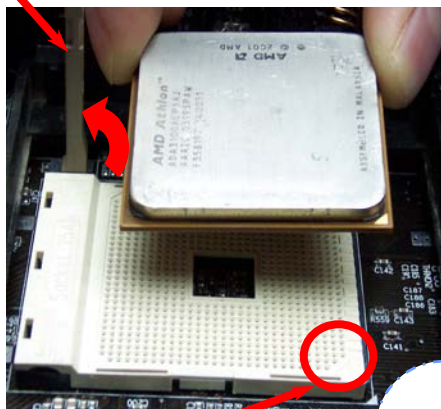
3.2 インストールに必要な情報

CPUのインストール

当マザーボードはAMD[®] Athlon 64 Socket 754 CPUをサポートしています。CPUをCPUソケットに挿入する場合は、ソケットの方向にご注意ください(システムには**CPU過熱保護機能**が装備されているので、CPUが97°Cに達すると自動的に電源オフになります)。

1. CPUソケットレバーを90°引き起こします。
2. ソケットの1番ピンを確かめCPU上部の金色の矢印を確認します。1番ピンと矢印を合わせまこれCPUをソケットに差しします。
3. CPUソケットレバーを戻すと、CPU のインストールは完了です。

CPUソケットレバー



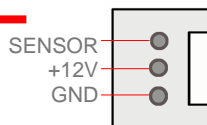
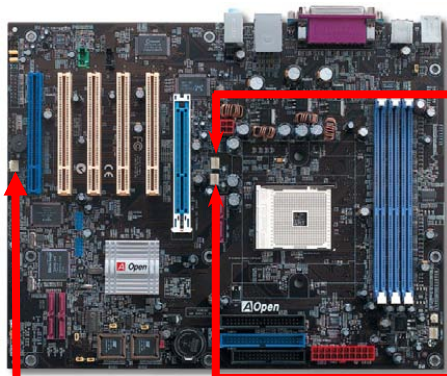
ソケット1番ピン



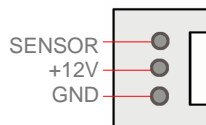
金色の矢印

CPUおよびシステムファンのインストール

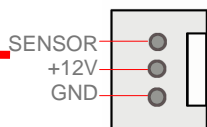
CPUファンケーブルは、3ピンのCPUFANコネクタに接続します。ケースファンがある場合は、これをSYSFAN1またはSYSFAN2コネクタに接続できます。



SYSFAN1コネクタ



CPUFANコネクタ



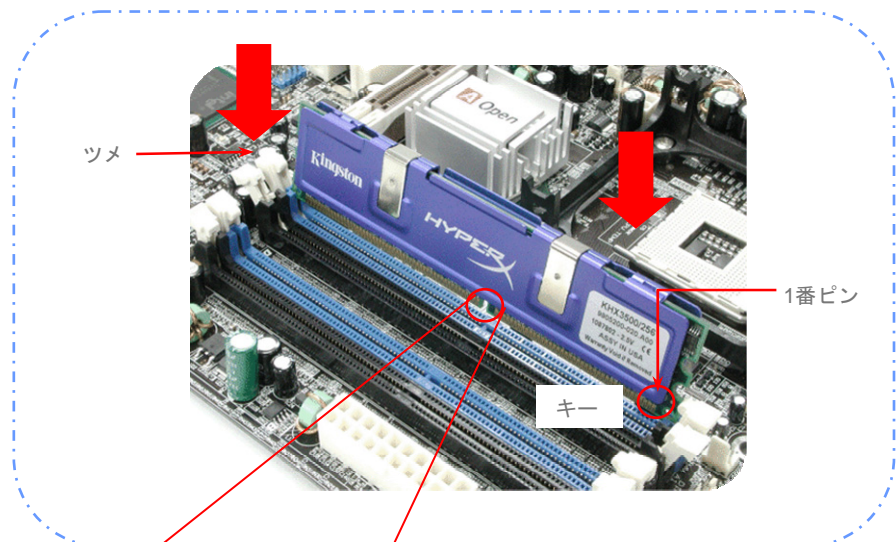
SYSFAN2コネクタ



メモ: CPUファンによってはセンサピンのない物もあります。この場合ファンのモニタ機能は使用できません。

メモリモジュールのインストール

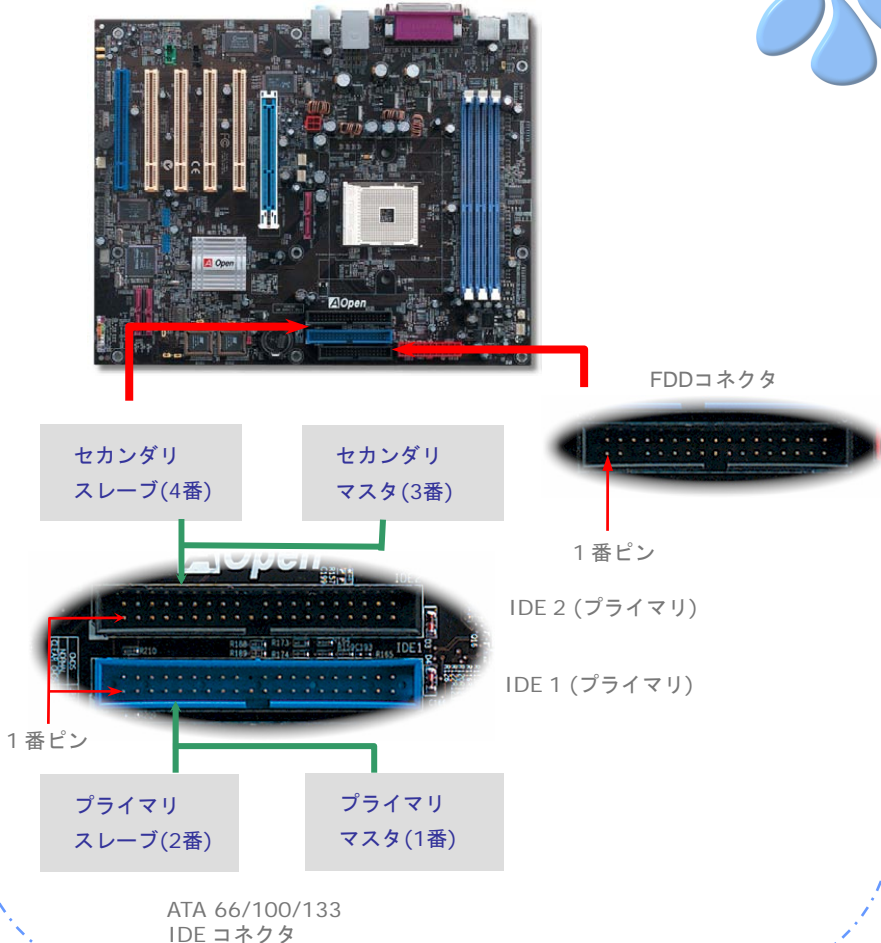
DIMMスロットはネイビーブルーとエレクトロニックブルーで容易に判別できます。モジュールを両手でDIMMスロットにまっすぐ静かに、きちんと止まるまで差します。



メモ: DIMMがスロット底部に達するとDIMMスロットのツメが起きてDIMMをホールドします。

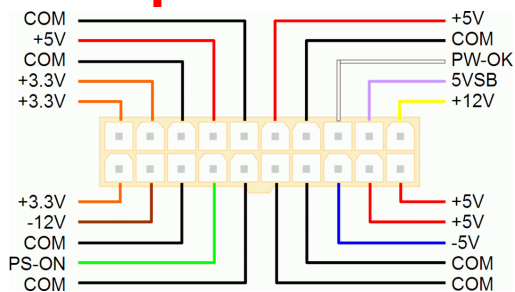
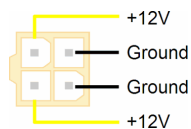
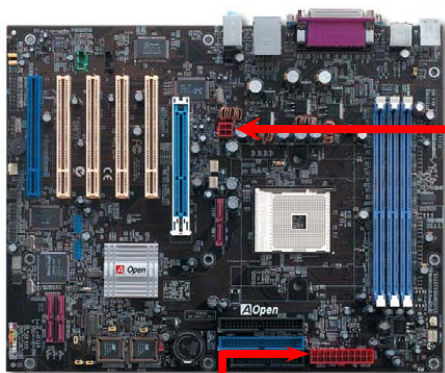
IDEおよびフロッピーケーブルの接続

34ピンフロッピーケーブルおよび40ピン、80芯線IDEケーブルをフロッピーコネクタFDDおよびIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きにご注意ください。向きを間違えるとシステムの故障の原因となります。



ATX電源ケーブルの接続

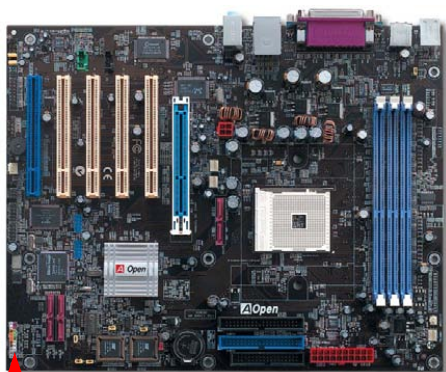
当マザーボードには下図のように20ピンおよび4ピンのATX電源コネクタが使用されています。差し込む際は向きにご注意ください。20ピンATX電源コネクタより先に4ピンコネクタを接続することを強くお勧めします。



フロントパネルケーブルの接続

電源LED、スピーカー、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに挿します。BIOSセットアップで“Suspend Mode”の項目をオンにした場合は、ACPIおよび電源のLEDがサスペンドモード中に点滅します。

お持ちのATXの筐体で電源スイッチのケーブルを確認します。これは前部パネルから出ている2-ピンメスコネクタです。このコネクタを**SPWR**と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続します。



1		
NC		Power Switch
NC		GND
+5V		Power LED-
HDD LED		GND
HDD LED		NC
+5V		NC
+5V		GND
GND		GND
NC		RESET
SPEAKER		GND

Front Panel Connector

3.3 他のインストール参照情報

CPU電圧およびクロックの設定

CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電圧ID (VID)機能で電源オン時にCPU電圧の自動検出が可能です。ただし、ユーザーがオーバークロックを望まれる場合に備え、BIOSから0.80V~1.55Vの範囲で設定可能です。時として本来のコア電圧より少し高めに設定すると、CPUのオーバークロックがより順調に行われる場合があります。

CPUクロックの設定


当マザーボードはCPUジャンパレス設計なので、CPUクロック設定はBIOSの1MHzステップCPUオーバークロック機能から行います。**CPUコアクロック = CPU FSBクロック × CPUレシオ**です。ただし、現在市場に流通するCPUは"倍率固定"、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。


BIOS Setup > Frequency / Voltage Control > CPU Speed Setup


(オーバークロックはユーザーご自身の責任で行ってください。!!)

AMD CPU	CPUコアクロック	CPUクロック	L2キャッシュ	レシオ
Athlon 64 2800+	1800MHz	200MHz	512KB	9x
Athlon 64 3000+	2000MHz	200MHz	512KB	10x
Athlon 64 3200+	2000MHz	200MHz	1024KB	10x
Athlon 64 3200+	2200MHz	200MHz	512KB	11x
Athlon 64 3400+	2200MHz	200MHz	1024KB	11x
Athlon 64 3400+	2400MHz	200MHz	512KB	12x
Athlon 64 3700+	2400MHz	200MHz	1024KB	12x

メモ: CPUクロックはたびたび変更されています。当インストールガイドを入手された時点でも、より高速のCPUが市場に出回っているかもしれません。この一覧表はユーザー皆様の参照用です。詳細はお買上げ店にお問い合わせください。

 **警告:**
Nvidia nForce3 250
チップセットは最大
200MHzのシステム
クロックおよび
66MHz AGPクロック
に対応します; より
高いクロック設定は
システムに重大な損
傷を与える可能性が
あります。

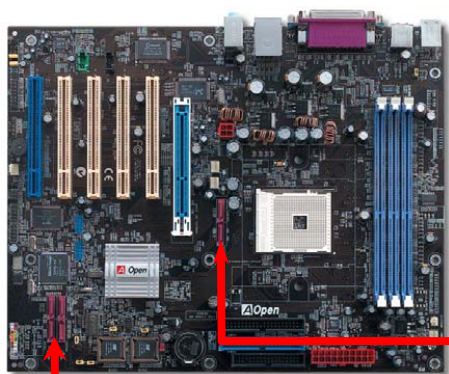
 **メモ:** オーバークロックによってシステムがハングまたは起動不能になった場合は、<Home>キーを押すだけでデフォルト設定に戻せますし、5秒間待ってAOpen "Watch Dog ABS"がシステムをリセットしてハードウェア自動検出を再度行うようにもできます。

 **警告:** CPUレシオを、ご使用中のCPUに合わせて調節した後で、新たなCPUに交換する場合、交換時に<Home>キーを押すか、CMOSクリアを行ってデフォルト設定に戻してください。そうしないと、システムは以前のCPU設定を新たなCPUに適用してしまいます。

CPUレシオ	4xから25x、1x刻み
CPU FSB (マニュアル調節)	FSB = 200 MHz-250 MHz、1 MHzステップCPUオーバークロックによる

Serial ATAの接続

Serial ATAディスクの接続には、7ピンのserial ATAケーブルが必要です。serial ATAケーブルの両端をマザーボード上のserial ATAヘッダおよびディスクに接続してください。従来のディスクと同様、電源ケーブルも接続する必要があります。インストール時には、マスタやスレーブを指定するジャンパ設定は不要です。serial ATAハードディスクがserial ATAポートに接続されると、ポート1(SATA1)に接続されているのが自動的に優先起動される設定となります。**ただし、ホットプラグ機能はサポートされていない点にご注意ください。**



n250a-FR専用

SATA
ポート4

SATA
ポート3

SATA
ポート5

SATA
ポート6

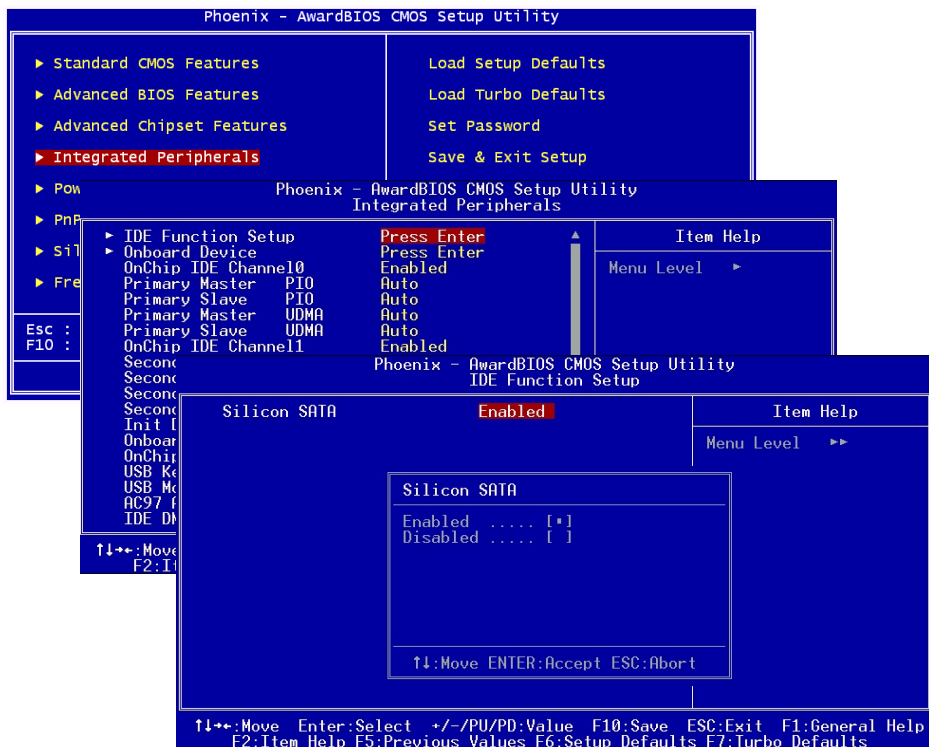
SATA
ポート2

SATA
ポート1

ハードディスク設定の調節

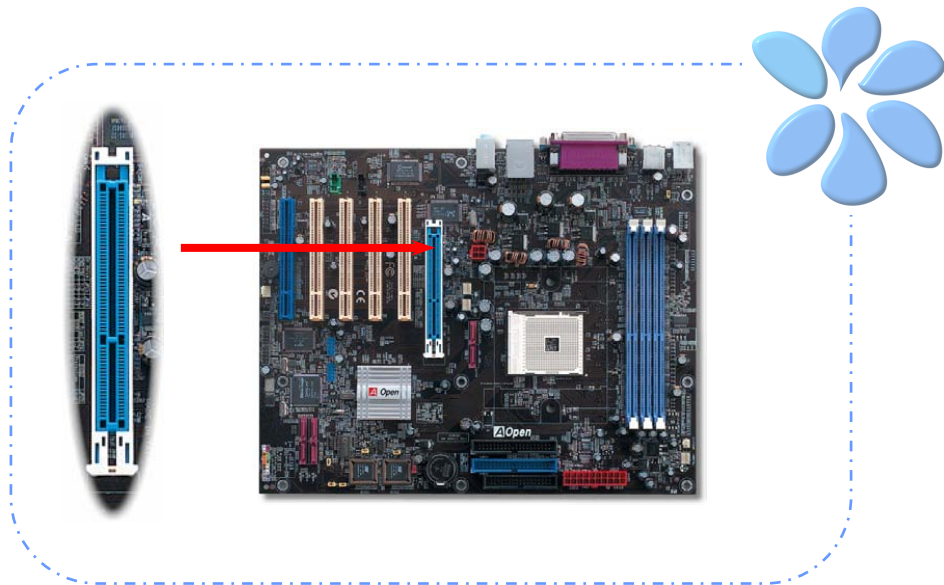
従来の2組のパラレルIDEに加え、当マザーボードは最新のserial ATAハードディスクをサポートしています。serial ATAハードディスクをインストール後、オペレーティングシステムからディスクが検出されない場合は、BIOS設定に問題がある可能性が高いです。ただBIOS設定を調節するだけで正しく動作できるようになります。

ハードディスクを正しくインストールした後、直接BIOS設定画面から調節を行います。“**Integrated Peripherals → IDE Function Setup → Silicon SATA**”を選んで、SATAインタフェースのオン・オフを設定します。



AGP 8X拡張スロットへの接続

n250a-FR / n250a-L / n250aにはマザーボード上に最新のAGP規格であるAGP 8Xスロット1個が搭載され、スカイブルーに色分けされています。AGP 8Xは高性能3Dグラフィックス用に設計されたバスインターフェースです。AGPは66MHzクロックの立ち上がりと下降部の双方を利用し、4X AGPの場合、転送速度は $66\text{MHz} \times 4\text{bytes} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ です。AGP は現在AGP 8xモードに移行中で転送速度は $66\text{MHz} \times 4\text{bytes} \times 8 = 2.1\text{GB/s}$ です。またAGP電圧はBIOSから1.5V~1.60Vの範囲で調節可能です。

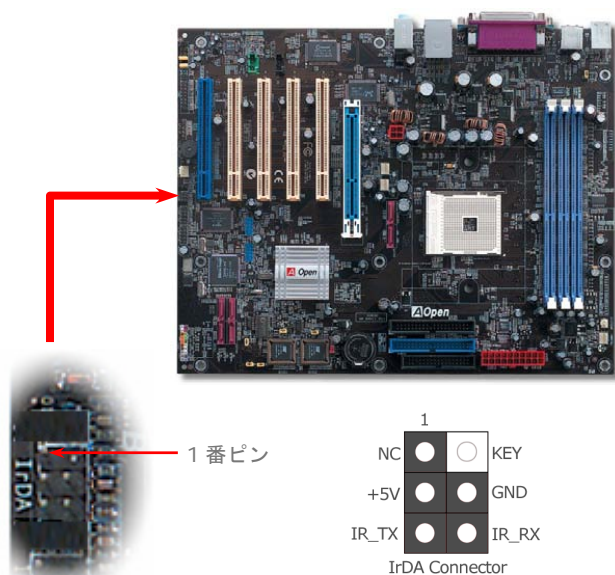


警告: SATA装置を接続している場合はAGP/PCIの電圧・クロックの調節は行わないでください。これは、AGP/PCIの電圧・クロックの調節により、SATAが100MHzを保持できず、システムが不安定になるためです。

IrDAの接続

IrDA コネクタはワイヤレス赤外線モジュールの設定後、LaplinkやWindowsの直接ケーブル接続等のアプリケーションソフトウェアと併用することで、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDAデバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2m以内)および ASK-IR (56Kbps)をサポートします。

IrDAコネクタに赤外線モジュールを接続し、BIOSセットアップのUART Modeで正しく設定します。IrDAコネクタを差す際は方向にご注意ください。



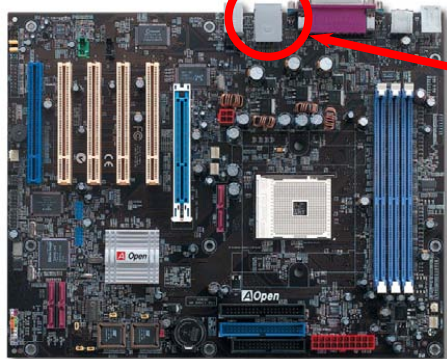
10/100/1000Mbps LANをサポート

オンボードのギガビットLANコントローラ(n250a-FRおよびn250a-L用)により、当マザーボードでは10/100/1000 Mbps(n250aでは10/100 Mbps)イーサネットがオフィスやホームユースで利用可能です。イーサネット用RJ45コネクタはUSBコネクタ上部に位置します。右側のLEDはリンクモード表示で、ネットワークにリンクしているとオレンジに点滅します。左側のLEDは接続速度モードで、100Mbps LAN接続中はグリーンに点灯します。(10Mbps接続では点灯しません)。一方ギガビットLAN接続ではオレンジに点灯します。この機能のオンオフはBIOSから簡単に設定できます。LANウェイクアップ機能を有効にするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションから“Wake on PCI Card”の項目を有効にします。



速度LED (左)
グリーン100Mbps
オレンジ ギガビットモード

ACT LED (右)
オレンジ



USB2.0の接続

当マザーボードには8個のUSBポートを装備し、マウス、キーボード、モデム、プリンタなどのUSB機器が接続できます。後部パネルには4個のポートがあります。適切なケーブルにより、フロントUSBコネクタからUSBモジュールまたはケースのフロントパネルに接続します。

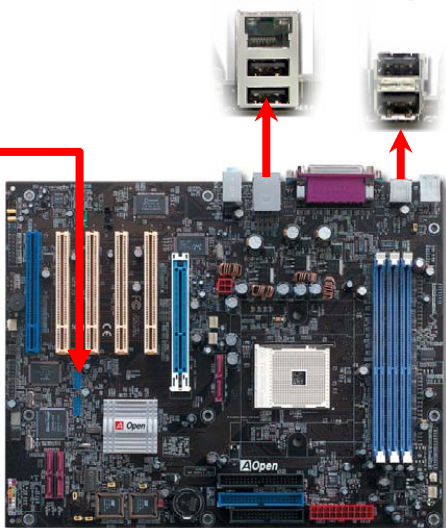


1番ピン

1番ピン

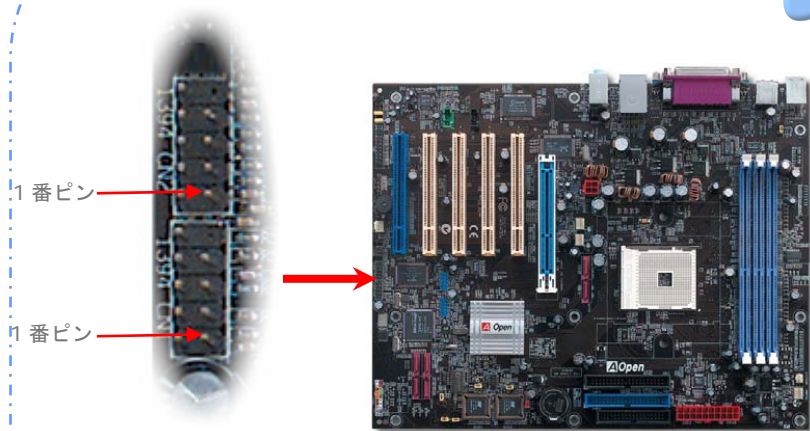
	1	
+5V	● ●	+5V
SBD6-	● ●	SBD7-
SBD6+	● ●	SBD7+
GND	● ●	GND
KEY	○ ●	NC

USB 2.0 Connector



1394の接続 (n250a-FRのみを対象)

当マザーボードにはオンボードでAGERE 1394コントロールチップを装備しています。IEEE 1394 は最大400Mb/sの転送速度を実現します。このためIEEE 1394インターフェースはデジタルカメラ、スキャナー、その他IEEE 1394装置など高速データ転送性能を必要とするデバイスの接続に使用できます。IEEE1394デバイスへの接続には適切なケーブルをご使用ください。



	10	9	
SHIED GND	●	○	
+12V(Fused)	●	●	+12V(Fused)
TPB-	●	●	TPB+
GND	●	●	GND
TPA-	●	●	TPA+
	2	1	

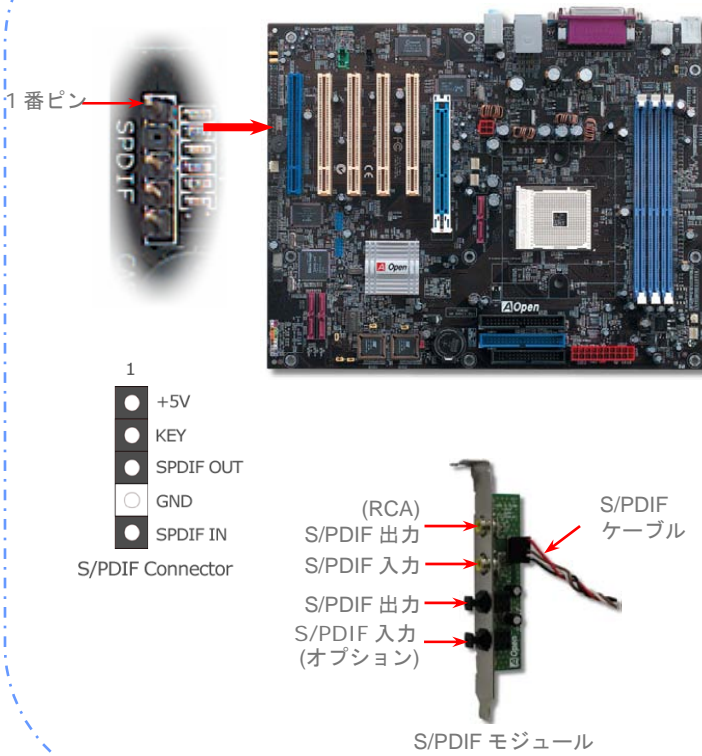
IEEE 1394 Connector



警告：IEEE 1394ヘッダへのホットプラグは不可能です。これによりコントローラのICは焼損し、マザーボードが故障するおそれがあります。

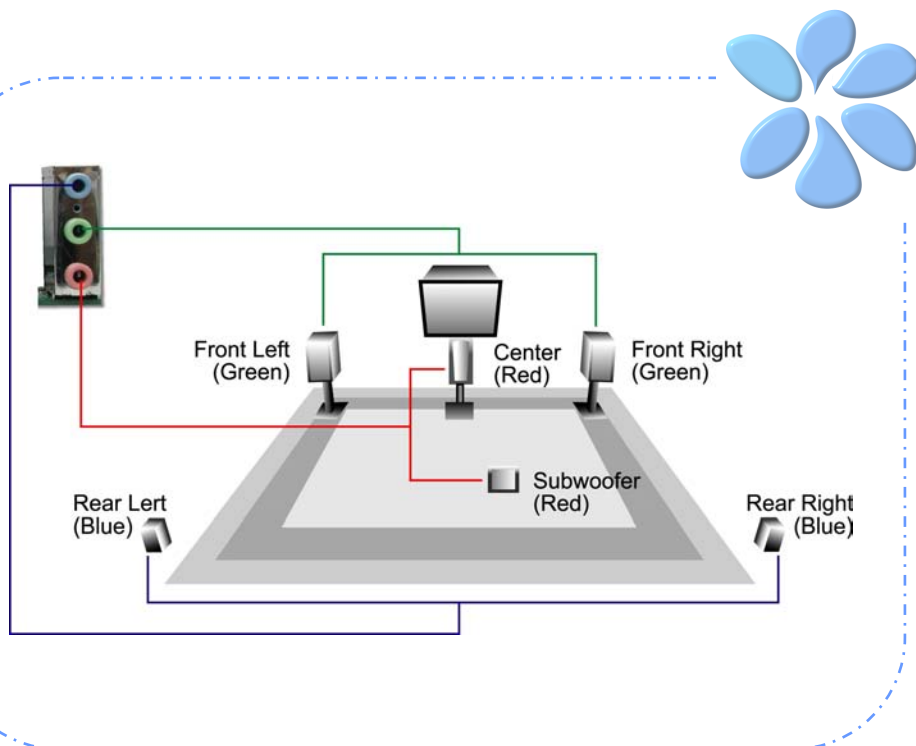
S/PDIFの接続

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わるデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。専用オーディオケーブルにより、SPDIFコネクタと別のS/PDIFデジタル出力をサポートするS/PDIFオーディオモジュールを接続します。図示されているように通常S/PDIF出力は2つあり、一方は大部分の消費型オーディオ製品に対応するRCAコネクタ、他方はより高品質のオーディオに対応する光コネクタです。出力と同様、モジュールの入力コネクタにRCA または光信号オーディオ製品を接続して、お持ちのコンピュータからサウンドを出すことも可能です。ただし、当機能の長所を最大限活かすにはSPDIFデジタル入出力をSPDIFデジタル入出力対応スピーカー/アンプ/デコーダに接続する必要があります。



高性能5.1チャンネルオーディオ機能

このマザーボードは高性能5.1チャンネルオーディオ機能をサポートするAC'97 CODECを装備し、新たなオーディオ体験へご案内します。AC'97 CODECの画期的な設計により、特別な外部モジュールなしで標準のラインジャックをサラウンド出力用に接続できます。この機能を利用するにはボーナスパックCD内のオーディオドライバおよび5.1チャンネル対応のオーディオユーティリティをインストールする必要があります。下図は5.1チャンネルサウンドトラック使用時の標準的なスピーカー配置を示しています。フロントスピーカー端子は緑の“スピーカー出力”ポートに、リアスピーカー端子は青の“ライン入力”ポートに、センターおよびサブウーファースピーカー端子は赤い“MIC入力”ポートに接続してください。

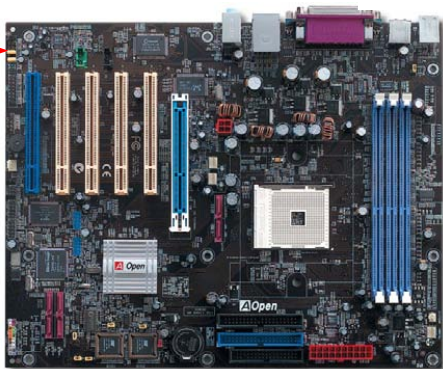


フロントオーディオの接続

筐体のフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。なお、ケーブルを接続する前にフロントパネルオーディオコネクタからジャンパキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合は黄色いキャップを外さないでください。



1番ピン



	1		
AUD_MIC	●	●	AUD_GND
AUD_MIC_BIAS	●	●	AUD_VCC
AUD_FPOUT_R	●	●	AUD_RET_R
NC	●	○	KEY
AUD_FPOUT_L	●	●	AUD_RET_L

Front Audio Connector

ゲームポートの接続

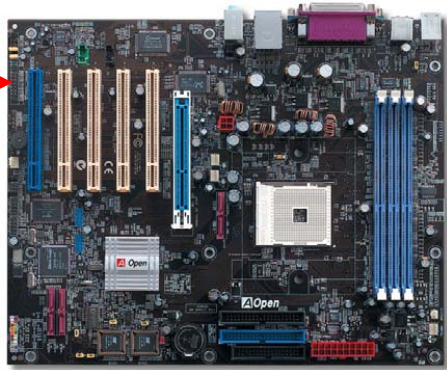
当マザーボードにはゲームポート(ジョイスティック-MIDI)が用意され、MIDI装置やジョイスティックが接続できます。この機能を利用するにはジョイスティックモジュールをお買い求めの上、ケーブルでマザーボードのポートに接続する必要があります。

1番ピン

	1	2		
+5V	●	●	+5V	
JAB1	●	●	JBB1	
JACX	●	●	JBCX	
GND	●	●	MIDI_TXD	
GND	●	●	JBCY	
JACY	●	●	JBB2	
JAB2	●	●	MIDI_RXD	
+5V	●	○	KEY	

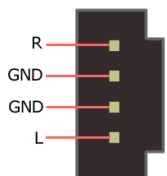
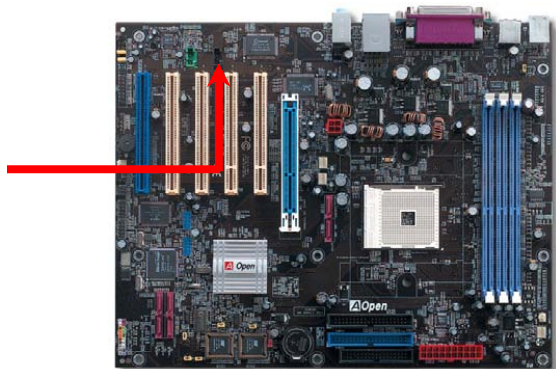
15 16

Game Port Connector
(User Upgrade Optional)



CD_INの接続

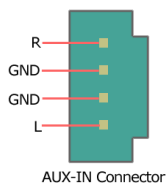
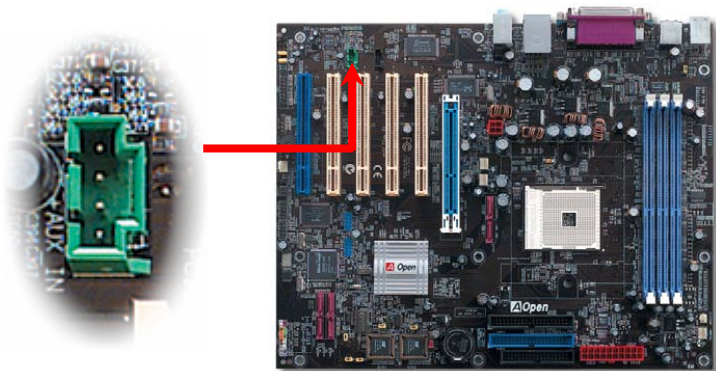
このコネクタはCDROMまたはDVDドライブからのCDオーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。



CD-IN Connector

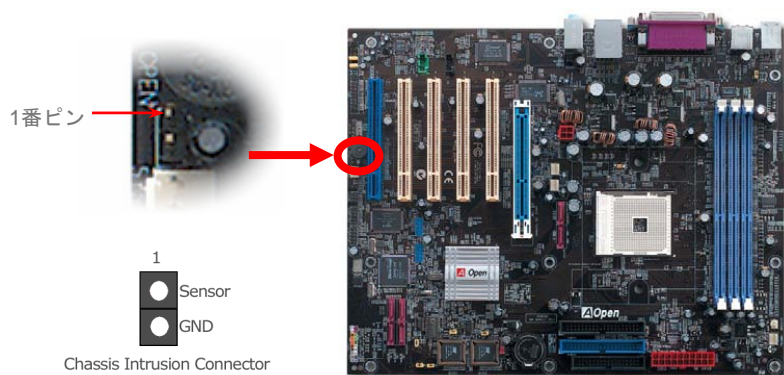
AUX_INの接続

このコネクタはMPEGカードからのMPEGオーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。



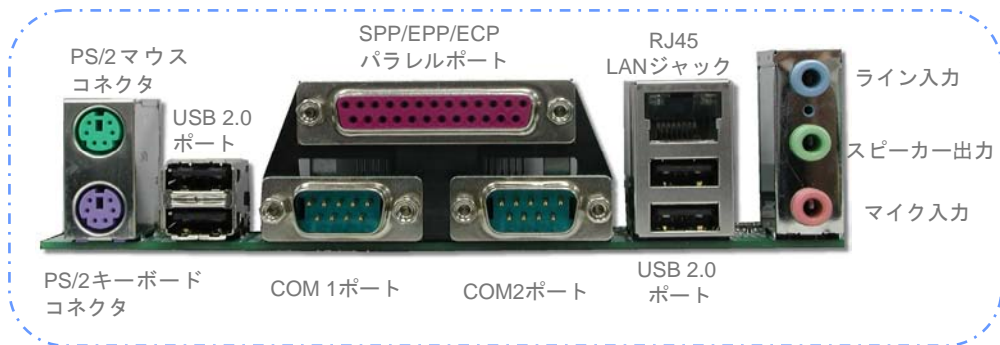
ケース解放センサコネクタ

“CASE OPEN”ヘッダーはケース開放センサ機能を提供します。この機能を利用するにはシステム BIOSで設定をオンにし、このヘッダーをケース内に設置したセンサに接続する必要があります。この場合、センサが光やケース開放を検知するとシステムはビープ音で知らせます。ただし、この便利な機能は新型のケースを対象としており、センサの購入・設置が必要となる場合がある点にご注意ください。



カラーコード対応後部パネル

オンボードのI/OデバイスはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、COM2ポート、プリンタ、USB、AC97サウンドです。下図はケースの後部パネルから見た状態です。



PS/2キーボード:

PS/2プラグ使用の標準キーボード用

PS/2マウス:

PS/2プラグ使用のPC-マウス用

USBポート:

USB機器の接続用

パラレルポート:

SPP/ECP/EPPプリンタ接続用

COM1ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

COM2ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

RJ-45 LANポート:

ホームまたはオフィスでのイーサネット接続用

スピーカー出力:

外部スピーカー、イヤホン、アンプへ

ライン入力:

CD/テーププレーヤー等からの音源から

マイク入力:

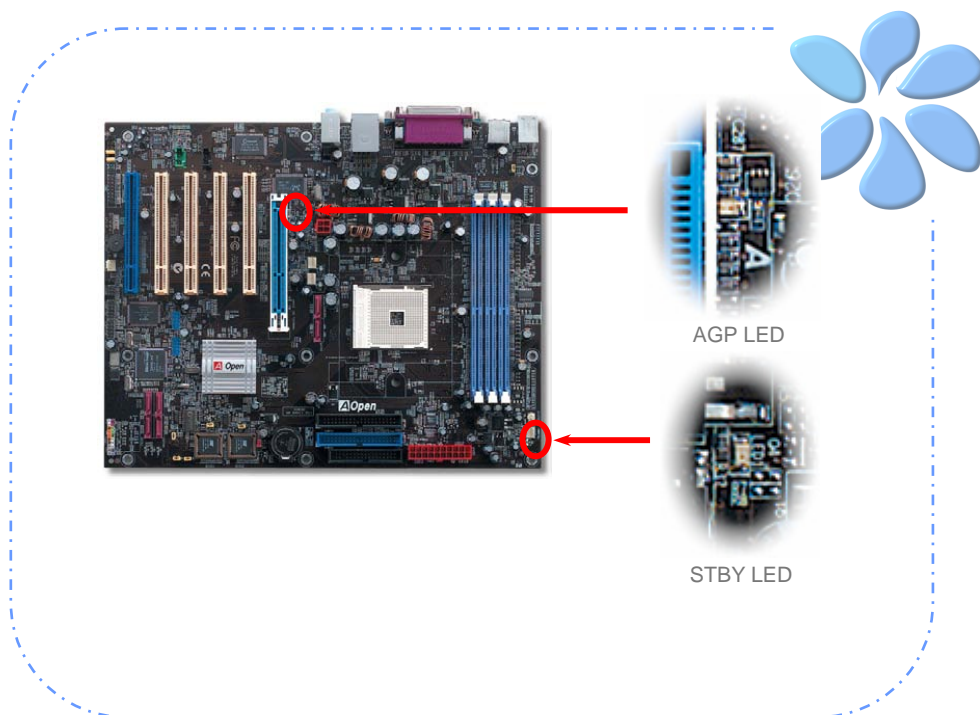
マイクロホンから

LED表示

LED indication including スタンバイLEDおよびAGP LEDはユーザーにシステム情報を親切に知らせる目的でAOpenが考案した設計です。

STBY LEDは、マザーボードに電力が供給されているときに点灯します。これは電源オン・オフ、スタンバイモードおよびサスペンドトゥーRAMモード中でのRAM電力状態など、システム電力状態をチェックするのに便利な機能です。

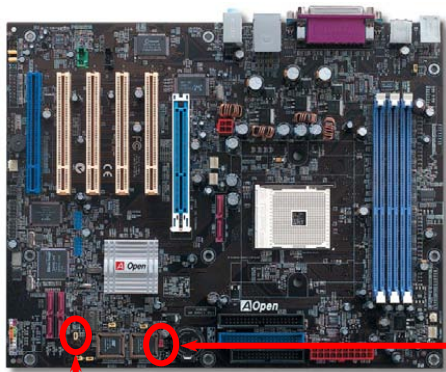
AGP LEDは、AGPカードの過剰電圧によるマザーボード損傷を防止するのが目的です。AGP保護機能導入により、マザーボードはAGPカード電圧を自動検知し、チップセットの焼損を防止します。ここで注意すべきことは、NVIDIA nForce3 250チップセットでサポートされていない3.3V のAGPカードをインストールすると、マザーボード上のAGP LEDが点灯して電圧過剰による損傷の危険性を知らせます。



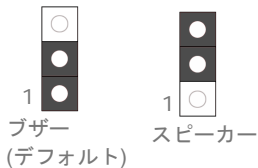
3.4 ジャンパ設定

JP2スピーカー出力 (n250a-FR専用)

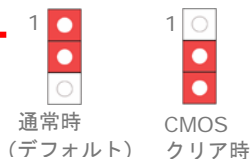
ブザーおよびスピーカーからの音声をオフにできる機能が備わっています。オペレーティングシステムでエラーが発生した場合でもDr.ボイス音声による通知をオフにできます。



JP2スピーカー出力ジャンパ



JP14 CMOSクリアジャンパ



JP14 CMOSデータクリア

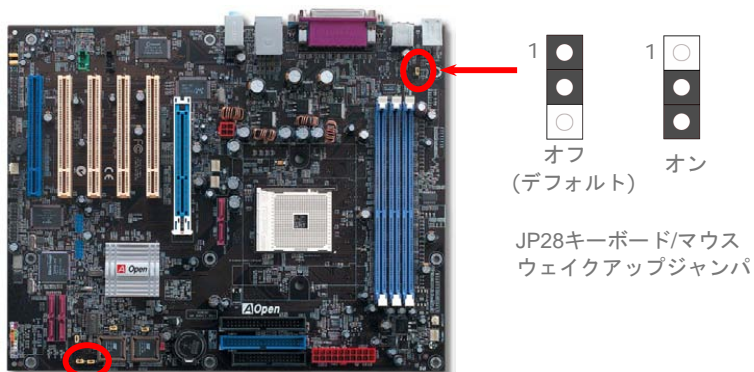
CMOSをクリアすると、システムをデフォルト設定値に戻せます。以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクタPWR2からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタPWR2に差しします。

JP15/16 Dr.ボイス言語設定

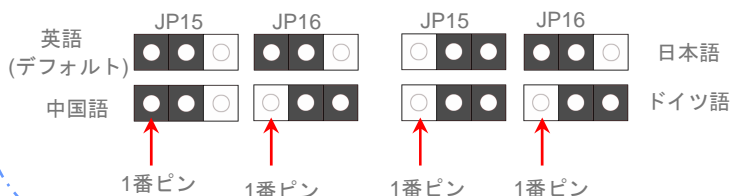
(n250a-FR専用)

Dr.ボイスには英語、ドイツ語、日本語、中国語という4種の言語バージョンがあります。お好きな言語への設定にはJP15およびJP16ジャンパを使用します。



JP28キーボード/マウス
ウェイクアップジャンパ

JP15/16 Dr. ボイス言語設定ジャンパ



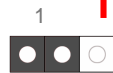
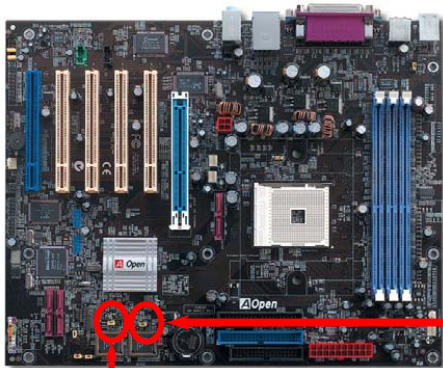
JP28 キーボード/マウス
ウェイクアップジャンパ

当マザーボードにはPS2キーボード/マウスウェイクアップ機能が装備されています。

JP24/25 BIOSレスキュー/保護ジャンパ
(n250a-FR専用)

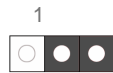
当マザーボードにはDieHard BIOS II機能が装備され、ウイルス感染したBIOSの復帰およびウイルスからのBIOS保護を行います。BIOSがクラッシュした場合は、JP24を2-3番ピン接続にしてBIOS 2からシステム起動させます。それからJP24を1-2番ピン接続にもどし、AOpenウェブサイト (<http://download.aopen.com.tw/downloads>) にアクセスしてご使用のマザーボードに合ったBIOSバージョンを見つけてダウンロードし、フラッシュ操作を行います。

さらに、BIOS 2にはデータ保存機能があります。DieHard BIOS IIでは、BIOS2をより大きなメモリ空間のある読み書き可能ROMとして使用可能です。

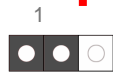


通常時
(デフォルト)

JP24 BIOSレスキュージャンパ

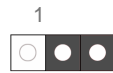


レスキュー時
(BIOS2から起動)



保護あり
(デフォルト)

JP25 BIOS2保護ジャンパ



保護なし

4章 特別な機能およびユーティリティ

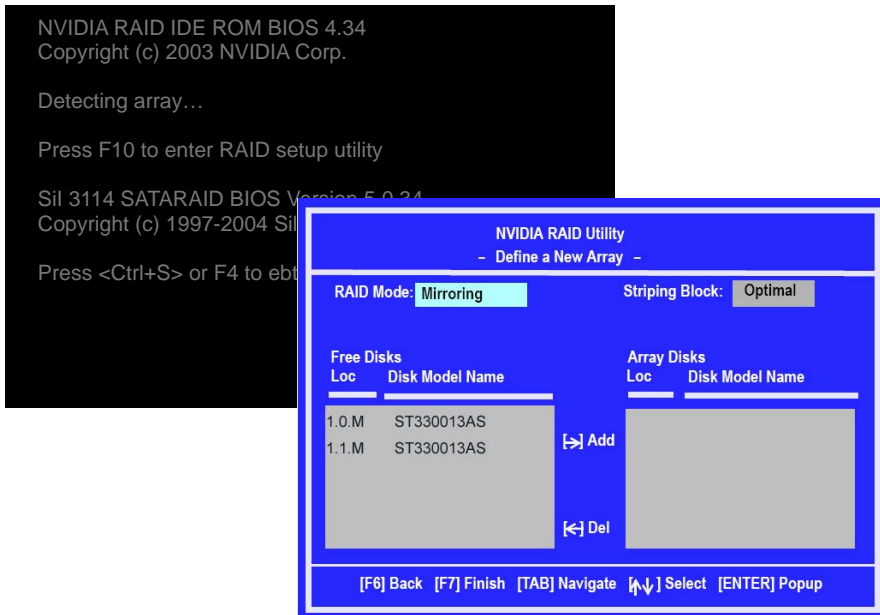
RAID (Redundant Array of Independent Disks)

当マザーボードはRAID 0, RAID 1およびRAID 0+1 (n250a-FRのみ)機能をサポートしています。RAIDに関する詳細は下記の当社ウェブサイトをご参照ください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside/RAID.htm>

RAID設定ユーティリティ

Nvidia nForce3 250チップセットはRAID 0およびRAID 1機能をサポートしています。ご使用のシステムがSerial ATA RAID装置を正常に検知し操作できるよう、RAID設定ユーティリティを起動して幾つかの設定を行う必要があります。BIOSセットアップを完了して再起動させると、起動途中に [Press F10 to enter RAID setup utility]という表示が見えます。ここでF10をすぐ押すと、下図のような画面が表示されます。このユーティリティによりディスクアレイの構築および削除を行えます。

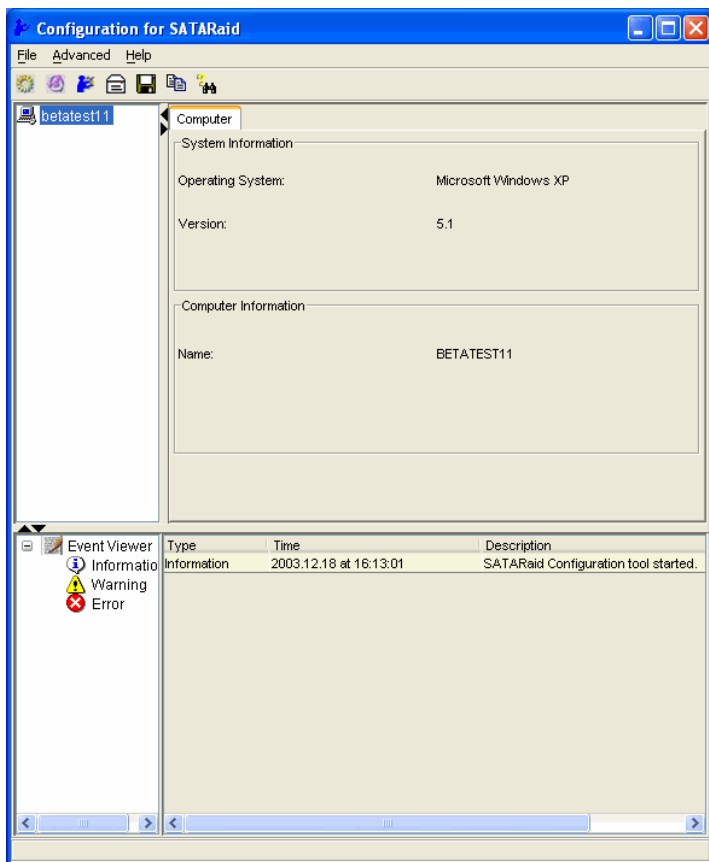


メモ: RAID 0またはRAID 1の円滑な動作には、NVIDIA RAID CLASSドライバおよびNVIDIA NForce Storageコントローラの両方をインストールする必要があります。..

Silicon Image SATAraid GUIの概要(n250a-FRのみ)

Silicon Image's SATAraid™により、Serial ATA RAID 0 (ストライピング), RAID 1 (ミラーリング)および RAID 0+1 (ストライピングおよびミラーリング)機能が提供され、業界をリードするPCI-to-SATAホストコントローラ製品が活用できます。SATAraidソフトウェアの規格はグラフィカルユーザーインターフェイス(GUI)で、サポートされる各種RAIDセットを容易に設定できるようになっています。

SATAraid GUIインストールプログラムからWindows起動時にSATAraid GUIが自動的に起動するよう設定できます。SATAraid GUIが自動的に起動しないかユーザーによって終了された場合は、スタートメニューからJAVA SATAraidプログラムを選んでGUIを起動させることが可能です。



SilentTek - ノイズが消えた!



CPUクロックが飛躍的に上昇するにつれ、システム温度が高温になることが避けられなくなっています。そこでデリケートなシステムを守るためにマシン冷却効果を高めるよう、ファンを増設する努力が払われています。

一方、同時にユーザーの皆さんがこれらファンのノイズに悩まされることも事実です。実際には多くの場合設置されたファンを最高速で動作させることは不要です。反対に当社はファンの速度を的確に調整する方法を開発し、ノイズ低減のみならずシステム消費電力を最低限に抑えて、エネルギー資源の浪費を防いでいます。

この度AOpenマザーボードは新たなトータルソリューションであるSilentTekによりお持ちのシステムに静寂性を実現しました。ハードウェア回路、BIOSおよびWindowsユーティリティを併用することで、SilentTekは“ハードウェアステータスマニタ”、“過熱アラーム”および“ファン速度制御”の各機能をユーザーフレンドリーなインタフェースと共に提供し、ノイズ軽減、システムパフォーマンスおよび安定性を見事に調和させています。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility			
SilentTek Control			
CPUFAN	Boot Speed	70%	2800 RPM
SYSFAN1	Boot Speed	70%	---- RPM
SYSFAN2	Boot Speed	70%	None
PWRFAN	Boot Speed	70%	None
Fan Mode		Full Speed	
x	CPUFAN	Fixed Speed	100% 4000 RPM
x	SYSFAN1	Fixed Speed	100% ---- RPM
x	SYSFAN2	Fixed Speed	100% None
x	PWRFAN	Fixed Speed	100% None
x	GPU Set	Temp.	40° C
x	SYS Set	Temp.	30° C
x	PWR Set	Temp.	30° C
CPUFAN	OS Speed	100%	4000 RPM
SYSFAN1	OS Speed	100%	---- RPM
SYSFAN2	OS Speed	100%	None
PWRFAN	OS Speed	100%	None

Item Help

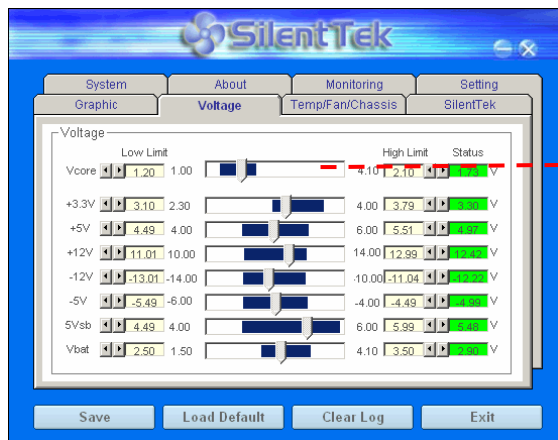
Menu Level ▶▶

This is initial fan speed when power-on. "50%" means half of full speed, "100%" means full speed.

Note:
During POST stage, the fan will be controlled by the mode you specified in the item "Fan Mode".

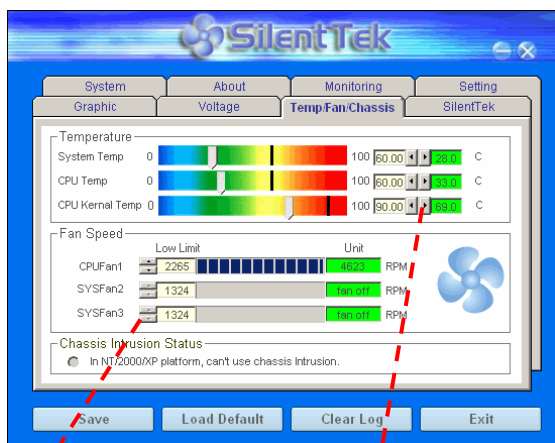
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:turbo Defaults

この最初の図は電圧状態表示ページです。ここで全ての電圧状態表示およびアラーム通知用の範囲設定が行えます。



ご使用のシステム電圧がこのバー表示によって確認できます。

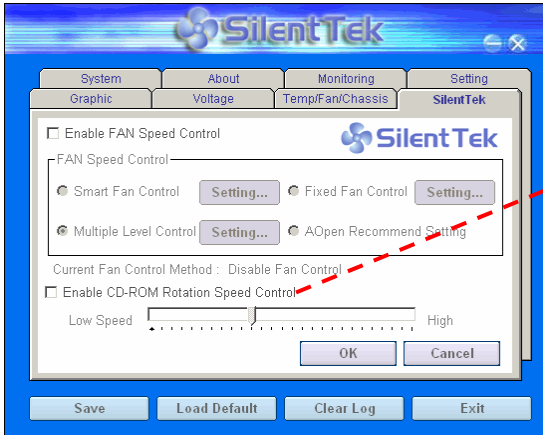
“温度/ファン/ケース”ページでは、現在のCPUおよびケース内部温度、さらにファンが正常動作しているかの確認ができます。



ここでは当然使用ファンの最低範囲設定を行えますが、ファンが規定速度よりも遅く回転している場合はSilentTekから警告メッセージがポップアップ表示されます。

ご使用のCPUおよびシステム温度を最大限にデフォルト設定もできますが、温度がこの範囲を超える場合はSilentTekから警告メッセージがポップアップ表示されます。

続くページが当ユーティリティの最重要な部分で、ページ内のオプションから特定のファンに対する回転速度を設定できます。設定内容は以下のとおりです。




CD-ROM回転速度制御：CD-ROM回転速度制御を有効にすると、ご使用のCD-ROMドライブの回転数を調節できます。速度を高速に設定すると、最高速度で動作し、低速に設定すると基本的な速度で動作します。

スマートファン制御：これがSilentTekユーティリティのデフォルト設定で、どのケースにも使用可能な一番設定しやすい機能です。これはAOpenにより開発されたアルゴリズムでファン速度をCPUおよび周囲温度の状況により自動調節するものです。使いやすくトラブルのない機能がユーザー皆様のものとなります。

固定ファン制御：この設定では、インストールされた各ファンに対する特定の速度が指定できます。

マルチレベル制御：これはユーザーがファン回転速度から温度設定の詳細に到るまで自由に設定できる機能です。

AOpen推奨設定：これはAOpen製ケースに最適な設計です。ラボでの一連のテストにより実際に使用されるシナリオに従って各CPU動作状態と温度範囲での静音化を伴う最適ファン速度を割り出しました。CPUが全負荷状態でないときにはたいていの場合ファンは停止します。

 **参考**：市場には何百ものブランドのファンがあるので、回転速度を設定した際にある程度の誤差が生じる可能性があります。これは基準判断中のものであり、ご使用のシステムに支障をきたすことはありません。

その他の便利な機能

With excellent design ability of R&D team, AOpenの優秀なR&Dチームの開発能力により、当社製品には下記のような各種の強力で便利な機能が備わっています。これら機能についての詳細は下記ウェブサイトをご参照ください。 <http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



5章 BIOSの設定

紹介

システムパラメータの変更はBIOSセットアップメニューから行います。このメニューによりシステムパラメータを設定し、128バイトのCMOS領域 (通常、RTCチップの中か、またはメインチップセットの中)に保存できます。

マザーボード上のフラッシュROMにインストールされているPhoenix-Award BIOS™ は工場規格BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブや、シリアル・パラレルポートなどの標準的な装置の基本的な入出力機能を下層で管理する肝要なプログラムです。

当マザーボードのBIOS設定の大部分はAOpenのR&Dエンジニアリングチームによって最適化されています。しかし、システム全体に適合するよう、BIOSのデフォルト設定だけでチップセット機能を細部に至るまで調整するのは不可能です。それでこの章の以下の部分には、その他の設定方法が説明されています。

BIOSセットアップメニューを表示するには、POST (Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断) 実行中にキーを押してください。



メモ : BIOSコードはマザーボードの設計の中でも最も頻繁に変更が繰り返される部分なので、このマニュアルで説明されているBIOS情報は、お持ちのマザーボードに実装されているBIOSとは多少異なる場合があります。

Phoenix-Award™ BIOSセットアッププログラムの使用方法

一般には、選択する項目を矢印キーでハイライト表示させ、<Enter>キーで選択、<Page Up>および<Page Down>キーで設定値を変更します。また<F1>キーでヘルプ表示、<Esc>キーでAward™ BIOSセットアッププログラムを終了できます。下表にはAward™ BIOSセットアッププログラム使用時のキーボード機能が説明されています。これに替わるものとして、AOpenからの最新のWinBIOSユーティリティをインストールされることをお勧めします。これにより、より詳細な説明、強力な機能やBIOSの詳細設定が可能となります。

キー	説明
Page Upまたは+	次の設定値に変更または設定値を増加させる
Page Downまたは-	前の設定値に変更または設定値を減少させる
Enter	項目の選択
Esc	メインメニュー内: 変更を保存せずに中止 サブメニュー内: サブメニューからメインメニューに戻る
↑	前の項目をハイライト表示する
↓	次の項目をハイライト表示する
←	メニュー内のハイライト部分を左に移動
→	メニュー内のハイライト部分を右に移動
F6	CMOSからフェイルセーフ設定値をロード
F7	CMOSからターボ設定値をロード
F10	変更を保存してセットアップを終了

BIOSセットアップの起動方法

ジャンプ設定およびケーブル接続が正しく行われたなら準備完了です。電源をオンにし、POST (Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断) 実行中にキーを押すと、BIOSセットアップに移行します。推奨される最適なパフォーマンスには"Load Setup Defaults (デフォルト値のロード)"を選びます。



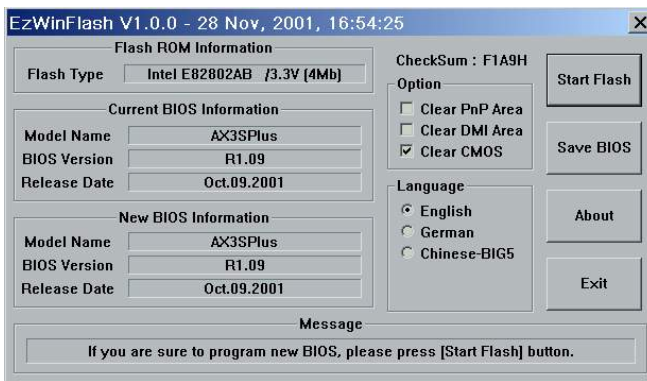
警告: ご使用のシステムコンポーネント (CPU, DRAM, HDD等)がターボ設定可能であることがはっきりしない場合は、“ターボデフォルト値のロード”は使用しないでください。

Windows環境でのBIOSアップグレード environment



AOpenの優秀な研究開発能力により、全く新たなBIOSフラッシュウィザード ---- EzWinFlashが開発されました。ユーザー皆さんにわかりやすいよう、EzWinFlashはBIOSバイナリコードおよびフラッシュモジュールを統合しており、ウェブからダウンロードしたユーティリティをクリックするだけで残りのフラッシュ操作は自動処理されます。EzWinFlashはご使用のマザーボードおよびBIOSバージョンを検知し、システムに故障が生じるのを防止します。さらにEzWinFlashではご使用になるwindowsプラットフォームの全て、Windows 95/98, 98SE/ME, NT4.0/2000, さらにWindows XPを対象に考慮・設計されています。

同時に、よりユーザーフレンドリーな操作環境を実現するため、AOpen EzWinFlashはBIOS設定変更がより容易に行える多言語対応機能も備えています。



ご注意: マザーボードのフラッシュ操作をすることには、BIOSフラッシュエラーの可能性が伴うことをご了承ください。マザーボードが正常に安定動作しており、最新のBIOSバージョンで大きなバグフィックスがなされていない場合は、BIOSのアップデートは行わないようお勧めします。

アップグレードを実行する際には、故障を防ぐためマザーボードモデルに適した正しいBIOSバージョンを必ず使用するようにしてください。

メモ: BIOSの説明図での型式名は参考用です。お買上げのマザーボードと同一ではない可能性があります。



下記の手順でEzWinFlashによるBIOSアップグレードが可能ですが、アップグレードを始める前に全てのアプリケーションを終了させておくよう強くお勧めいたします。

AOpen の公式ウェブサイト(例: <http://www.aopen.co.jp/>)から最新のBIOSアップグレード zip ファイルをダウンロードします。

ダウンロードされたBIOSパッケージ(例:N250AFR102.ZIP)をWindows環境ではWinZip(<http://www.winzip.com>)で解凍します。

解凍されたN250AFR102.EXEおよびN250AFR102.BINなどのファイルをフォルダに保存します。

N250AFR102.EXEをダブルクリックすると、EzWinFlashはマザーボードのモデル名およびBIOSバージョンを自動検知します。BIOSが一致しない場合はフラッシュ操作には進めません。

メインメニューから使用言語を指定し、[フラッシュ開始]をクリックするとBIOSアップグレードが始まります。

EzWinFlashが残りのプロセスを自動処理したあと、ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するか聞いてきます。[再起動する]をクリックすると、Windowsが再起動されます。

POST実行中にキーを押してBIOSセットアップを起動します。"Load Setup Defaults"を選び、"Save & Exit Setup (保存して終了)"します。これでアップグレード完了です。

フラッシュ処理の際は表示がない限り、絶対に電源を切ったり他のアプリケーションを起動しないで下さい。



警告：フラッシュ時には以前のBIOS設定およびプラグアンドプレイ情報は完全に置き換えられます。システムが以前のように動作するには、BIOSの再設定が必要となります。

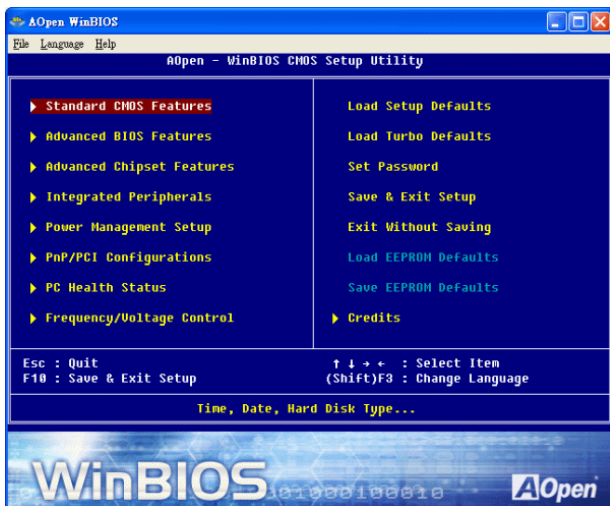
WinBIOSユーティリティ (n250a-FRのみ)










以前はユーザーはPOST (起動時の自己テスト)画面が表示されているときを見計らってDELキーを押してBIOSを起動させていましたが、これは不便で要領を得ないものです。これからはAOpenからBIOS設定のより便利な方法が提供されます。WinBIOSはAOpen製マザーボードでのみ実行可能なカスタムユーティリティで、BIOS設定がWindows環境で実行可能です。従来のBIOSに似たインターフェースで個々のBIOSパラメータをわかりやすい説明を見ながら設定できます。

WinBIOSは多言語サポートを念頭に開発されました。弊社ウェブサイトから種々の言語バージョンがダウンロード可能で、これにより言葉の解釈の誤りによる誤った設定も防止できます。ユーザーの皆さんはただ弊社サイトからご自分の言語パック (数KBのサイズ) をダウンロードし、ダブルクリックするだけでお望みの言語のサポートを有効にできます。

さらに、幅のあるスケーラビリティにより、新しいマザーボードであろうと新機能を持つ新しいBIOSバージョンであろうと、パラメータ全体を何度もダウンロードし直す必要はありません。ただウェブサイトから最新のプロファイルを入手しダブルクリックするだけで最新BIOSがサポートされます。WinBIOSを使えばご使用のマザーボードのサポートに余分の手間をかけなくて済みます。

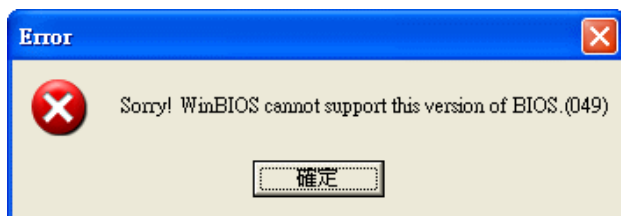


ファンクションキー:

WinBIOSの操作方法は従来のBIOS設定と同様な方法で行えます。ユーザーは     などの矢印キーでWinBIOS画面上の項目に移動できます。また  , “+”や“-”で必要な設定値を変更できます。 を押せば直前の画面に戻ります。また、表に示されたホットキーにより時間を節約できます。設定のあるものは再起動後有効となります。


ホットキー	機能の説明
F1	ヘルプを表示
F2	ヘルプ項目
F3	メニュー言語の変更
F5	直前の設定をロード
F6	デフォルト設定をロード
F7	ターボ設定をロード
F10	変更された設定を保存しセットアップを終了
F12	全画面/通常モードの切替

ご注意: BIOSの更新後はWinBIOSプロファイルのアップデートもお忘れなく。更新されたBIOSバージョンがWinBIOSプロファイルよりも新しい場合は、WinBIOSは起動できずエラーメッセージがポップアップ表示されます。この確認操作は誤ったプロファイルバージョンによるBIOS損傷を防止するものです。



最新のWinBIOSプロファイルおよび言語パックは下記のAOpen公式ウェブサイトから見出せます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads/default.asp>

 **メモ:** BIOSバージョンは非常に頻繁に更新されているので、マザーボードお買い上げ後にはすぐ当社ウェブサイトから最新のBIOSバージョンとWinBIOSプロファイルをダウンロードするよう強くお勧めします。



皆さんはいつも変り映えしないPOST画面に飽きていませんか？ ではPOST画面は固定したものであるという考えを変えて、AOpenが新開発したVividBIOSによるカラフルで生き生きとしたPOST画面をお楽しみください。

初期のグラフィックPOST画面ではPOST中にスクリーン全部が使用され、テキスト情報がマスクされてしまいましたが、AOpen VividBIOSではグラフィックスとテキストは別々に扱われ、POST中に同時表示されます。この画期的な設計により、VividBIOSはPOST画面に表示される重要な情報を見逃すことなく色鮮やかな256カラースクリーンを表示します。

加えてBIOS ROMの限られたメモリ空間も解決しなければならない問題です。従来のBIOSがメモリを消費する非圧縮のビットマップイメージしか表示できなかったのに対し、AOpenはBIOSを次世代向けに巧みに調整してコンパクトなGIF形式さらにはGIFアニメーション表示も可能にしました。



Vivid BIOSの基本技術はOpen JukeBox CDプレーヤーと共通しており、このEzSkinユーティリティからご使用のVivid BIOS スクリーンの変更やお好きなOpen JukeBoxスキンのダウンロードが可能です。BIOSダウンロードページ



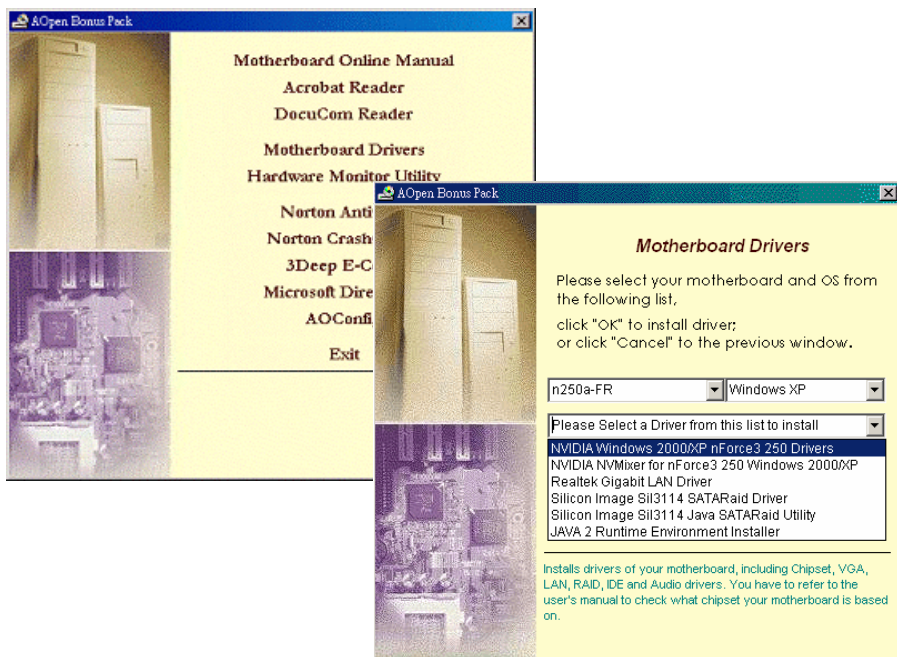
<http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm>の型式名の横にの小さなロゴがあれば、そのマザーボードはこの画期的な機能をサポートしています。

6章 ドライバのインストール

AOpenボーナスCDディスクにはマザーボードのドライバとユーティリティが収録されています。システム起動にこれら全てをインストールする必要はありません。ただし、ハードウェアのインストール後、ドライバやユーティリティのインストール以前に、まずWindows XP等のオペレーションシステムをインストールする必要があります。ご使用になるオペレーションシステムのインストールガイドをご覧ください。

6.1 ボーナCDからのオートランメニュー

ボーナスCDのオートラン機能がご利用いただけます。ユーティリティとドライバを指定し、型式名を選んでください。



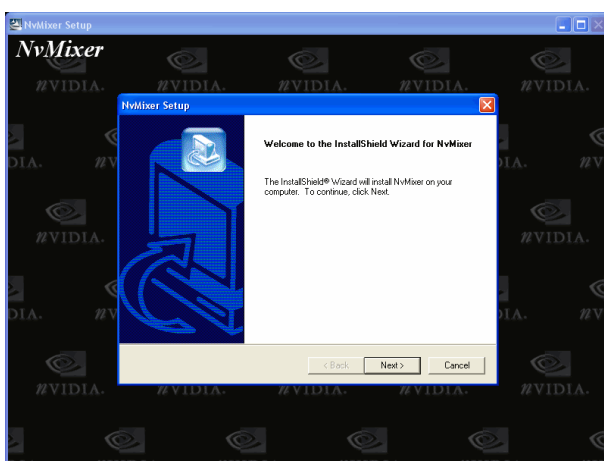
6.2 NVIDIA Windows nForce ドライバのインストール

NVIDIA Windows nForce ドライバはボーナスパックCDのオートランメニューからインストールします。



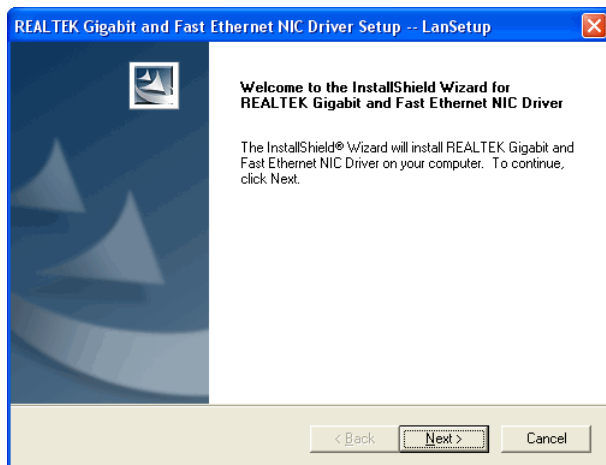
6.3 NVIDIA NvMixer ドライバのインストール

nForce3 250用NVIDIA NvMixer ドライバはボーナスパックCDのオートランメニューからインストールします。



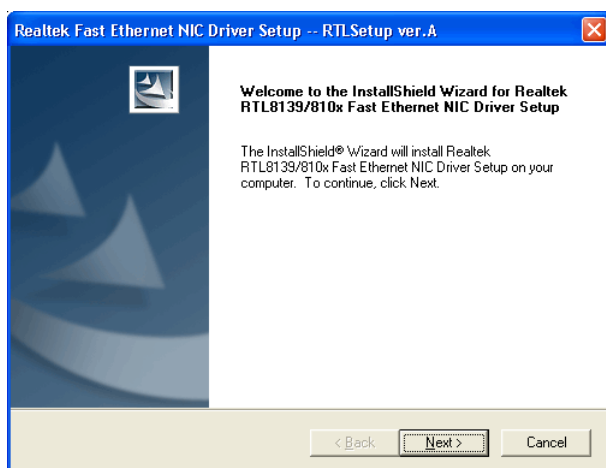
6.4 Gigabit LANドライバのインストール (n250a-FRおよびn250a-L用)

当マザーボードにはRealtek Gigabit LANコントローラがオンボードで装備され、オフィスおよびホームユースの10/100/1000 Mbpsイーサネット接続をサポートします。LANドライバはボーナスパックCDのオートランメニューからインストールします。



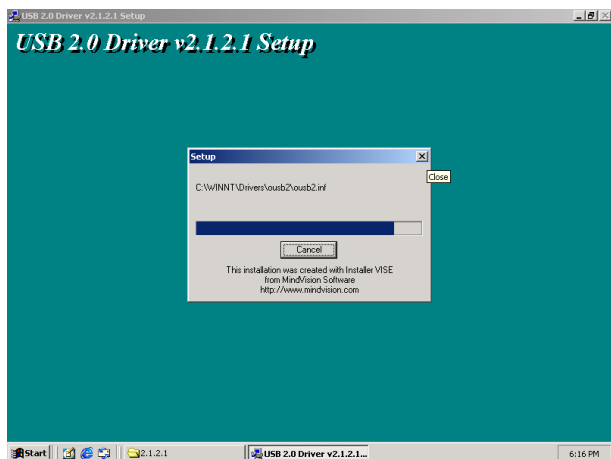
6.5 n250a用のLANドライバインストール

n250aマザーボードでは、オフィスおよびホームユースの10/100 Mbpsイーサネット接続がサポートされます。LANドライバはボーナスパックCDのオートランメニューからインストールします。



6.6 USB2.0ドライバのインストール

当マザーボードにはUSB2.0機能が装備されています。Windows 98SEおよびWindows ME環境ではUSB2.0ドライバをボーナスバックCDのオートランメニューからインストールする必要があります。



6.7 NVidia SATA RAIDドライバのインストール

当マザーボードには2個のserial ATAポート(SATAポート1およびSATAポート2)がnForce 250チップセットにより装備されています。NVIDIA Windows nForceドライバインストール時には、SATA RAIDドライバのインストールも同時に行われます。それでSATA RAID ドライバを再びインストールすることは不要です。



メモ: Windows 2000環境でRAID 0またはRAID 1を構築する場合、円滑な動作にはWindows 2000をService Pack 4にアップグレードする必要があります。

6.8 Silicon Image 3114 SATA RAIDドライバのインストール(n250a-FRのみ)

1) Windows NT 4.0およびWindows 2000/XPでの新規インストール

このセクションではWindows NT 4.0またはWindows 2000/XPの新規インストールの際、Sil 3114コントローラに接続されたドライブから起動させたい場合の方法を説明しています。

1. システムをシャットダウンします。ハードディスクドライブをSil 3114コントローラに接続し、コントローラをPCIスロットに装着します。システムの電源を入れます。
2. Windows NT/2000/XP CDをCD-ROM/DVDドライブに入れるか、CDから起動できない場合はNT/2000/XP起動用ディスク1枚目をフロッピードライブに入れます。
3. サードパーティSCSIまたはドライバのインストールには、テキストモードインストールの始めにF6を押します。セットアップが特定のデバイスを指定するか聞いてきたときに's'を押します。そして'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Driver Installation Disk'のラベルのついたディスクを入れます。'Enter'を押し'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Controller'を選びます。
4. 'Enter'を押してテキストモードセットアップを続けます。
5. パーティションおよびファイルシステムに関する指定をセットアップの指示に従って行います。
6. セットアップがディスク検査後、ファイルをWindows 2000インストールフォルダにコピーしシステムを再起動します。セットアッププログラムが実行され、インストール完了後再起動します。
7. Windows 2000がデバイスのインストール、地域の設定、ネットワーク設定、コンポーネント、最終作業を行うのを待ちます。必要であればシステムを再起動させます。
8. コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

2) 既存のWindows NT 4.0へのSil RAIDコントローラの追加インストール

このセクションでは、既にWindows NT 4.0が稼動しているシステムにSilicon Image Sil 3114ドライバをインストールする方法が示されています。

システムをシャットダウンします。ハードディスクドライブをSil 3114コントローラに接続し、コントローラをPCIスロットに装着します。システムの電源を入れます。

OS起動後、'スタート'をクリックします。

'設定'から"コントロールパネル"をクリックします。

"コントロールパネル"から'SCSIアダプタ'を選びます。

'ドライバ'タブを選び、'追加'をクリックします。

'ディスク使用'をクリックします。

'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Driver Installation Disk'のラベルのついたディスクをA: に入れ'Enter'を押します。

'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Controller'を選び、'OK'をクリックします。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

3) 既存のWindows 2000/XPへのSil RAIDコントローラのインストール

このセクションでは、既にWindows 2000が稼動しているシステムにSilicon Image Sil 3114ドライバをインストールする方法が示されています。

システムをシャットダウンします。ハードディスクドライブをSil 3114コントローラに接続し、コントローラをPCIスロットに装着します。システムの電源を入れます。

システムを起動させると、Windows 2000セットアップから"新しいハードウェアの検出ウィザード"が表示されます。'次へ'をクリックします。

"デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)"を選び、'次へ'をクリックします。

'場所の指定'の項目で'フロッピーディスクドライブ'にチェックされていることを確認します。

'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Driver Installation Disk' のラベルのついたディスクをA: に入れ'次へ'をクリックします。

ウィザードからドライバが検出されたことが表示されたら'次へ'をクリックします。

'デジタル署名が見つかりません'のダイアログボックスが表示されますが、'はい'をクリックしてドライバのインストールを続けます。

ウィザードが必要なファイルをシステムにコピーし、ドライバを起動します。ドライバが起動後ウィザードはインストール完了ダイアログボックスを表示するので'完了'をクリックしてウィザードを終了します。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

4) Windows NT, 2000およびXP環境でのコントローラのインストール確認方法

コントローラが正しくインストールされていることの確認にはこのセクションの以下のステップに従います。

Windows 2000/XPの場合

'マイ コンピュータ'アイコンを右クリックし、'プロパティ'を選び、'ハードウェア'をクリックし、'デバイスマネージャ'ボタンを押します。

'SCSIおよびRAIDコントローラ'をダブルクリックします。'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Controller'の前に黄色い'!'や'? 'が付いていなければドライバは正しく作動しています。

コントローラに接続されているデバイスの情報を知るには、SilCfgユーティリティを利用し、リスト上のデバイスをクリックしてください。

Windows NT 4.0の場合

'マイ コンピュータ'アイコンをダブルクリックし、'コントロールパネル'を選択、'SCSIアダプタ'アイコンをクリックします。'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Controller'が'デバイス'および'ドライバ'タブ内に表示されるはずですが。

コントローラに接続されているデバイスの情報を知るには、SilCfgユーティリティを利用し、リスト上のデバイスをクリックしてください。

5) Windows NT 4.0上で既存のSilicon Imageドライバに対するSil RAIDドライバの更新



OS起動後、'スタート'をクリックします。

'設定'から'コントロールパネル'をクリックします。

"コントロールパネル"から'SCSIアダプタ'を選びます。

'ドライバ'タブを選び、'追加'をクリックします。

'ディスク使用'をクリックします。

'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Driver Installation Disk'のラベルのついたディスクをA: に入れ'Enter'を押します。

'Silicon Image Sil 3114 SATA Raid Controller'を選び、'OK'をクリックします。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

6) Windows 2000/XP上で既存のSilicon Imageドライバに対するSil RAIDドライバの更新

Silicon Imageコントローラが既に装着され、ドライバもインストール済みの場合です。下記の方法でSil RAIDドライバを更新します。

'マイ コンピュータ'アイコンを右クリックし、'プロパティ'を選びます。'システムプロパティ'セクションで、'ハードウェア'タブを押し、'デバイスマネージャ'から'SCSIおよびRAIDコントローラ'を選び、'Silicon Image Ultra-133 Medley ATA Raid Controller'を右クリックします。

'ドライバ'をクリックし、'ドライバの更新'を指定し、"デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)"を選びます。ドライバディスクをフロッピードライブに入れます。'次へ'をクリックし、ドライバのインストールを完了します。

システムは一覧作成作業を行い、ドライバをインストールします。最終段階で、必要であれば'はい'を押してシステムを再起動させます。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

7) Windows 98SEおよびMEでの新規インストール手順

Windows 98SE/MEを新規インストールし、Sil 3114コントローラに接続されたドライブから起動させたい場合は、このセクションの下記の方法で行ってください。

Windows 98SE/MEインストールCDから起動できます。もしWindows 98SE/ME CDまたはCD-ROMドライブが起動できない場合は、フロッピーディスクから行うこともできます。

システムをシャットダウンします。ハードディスクドライブをSil RAIDコントローラに接続し、コントローラをPCIスロットに装着します。システムの電源を入れます。

Windows 98SE/ME CDをCD-ROM/DVDドライブに入れるか、CDから起動できない場合はWindows 98SE/ME起動ディスクをフロッピードライブに入れます。

通常のWindows 98SE/MEセットアップの指示に従い、パーティションおよびファイルシステムの設定を行います。

Windows 98SE/ME がデバイスのインストール、地域の設定、ネットワーク設定、コンポーネント、最終作業、再起動を行うのを待ちます。

システム再起動後、'マイ コンピュータ'を右クリックし'プロパティ'を選びます。'システムプロパティ'から'デバイスマネージャ'を指定、'?PCI RAID controller'を右クリックし、ポップアップメニューから'プロパティ'を選びます。

'ドライバ'をクリック、'ドライバの更新'さらに"デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)"を選びます。ドライバディスクをフロッピードライブに入れます。'次へ'をクリックし、ドライバのインストールを完了します。

システムは一覧作成作業を行い、ドライバをインストールします。最終段階で、'はい'を押してシステムを再起動させます。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

8) 既存のWindows 98SE/ME上でのSil RAIDドライバの新規インストール

既にWindows 98SE/MEシステムがあり、後からSilicon Image Sil 3114コントローラカードを購入された場合はアップデートプログラムを実行してSilicon Imageドライバをインストールする必要があります。ドライバパッケージはSilicon Image ドライバディスクまたはOEMベンダからのディスクに収められています。

システムをシャットダウンします。ハードディスクドライブをSil 3114コントローラに接続し、コントローラをPCIスロットに装着します。システムの電源を入れます。

システム起動中に「ハードウェアウィザード」が'PCI RAIDコントローラ'を検出したことが表示されます。'次へ'をクリックし、"デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)"を選び、'次へ'をクリックします。

'フロッピーディスクドライブ'にチェックし、ドライバディスクをフロッピードライブに入れ、'次へ'をクリックします。

システムは一覧作成作業を行い、ドライバをインストールします。最終段階で、'完了'をクリックしてインストールを完了します。Windows 98SE/MEドライブがSil RAIDコントローラに接続されている場合は、システムを再起動します。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

9) Windows 98SE/ME上で既存のSilicon Imageドライバに対するSil RAIDドライバの更新

Silicon Imageコントローラが既に装着され、ドライバもインストール済の場合です。下記の方法でSil 3114ドライバを更新します。

'マイ コンピュータ'アイコンを右クリックし、'プロパティ'を選びます。'システムプロパティ'セクションで、'SCSIおよびRAIDコントローラ'を選び、'Silicon Image Ultra-133 Medley ATA Raid Controller'を右クリックします。

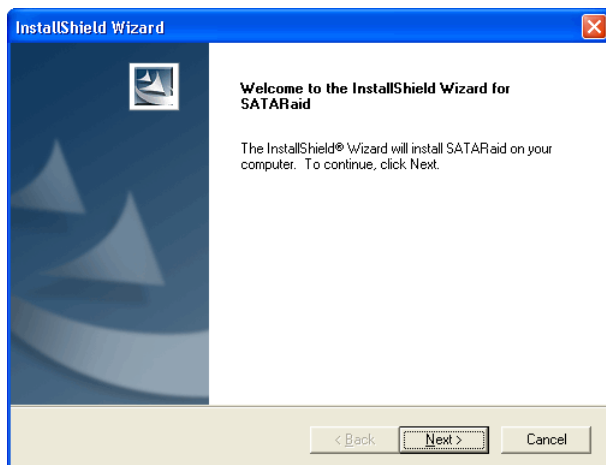
'ドライバ'をクリックし、'ドライバの更新'を指定し、"デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)"を選びます。ドライバディスクをフロッピードライブに入れます。'次へ'をクリックし、ドライバのインストールを完了します。

システムは一覧作成作業を行い、ドライバをインストールします。最終段階で、'はい'を押してシステムを再起動させます。

コントローラが正しくインストールされたことの確認方法はセクション4をご覧ください。

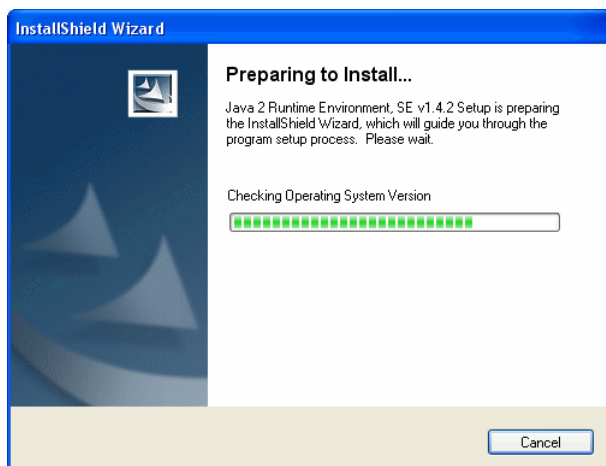
6.9 Silicon Image 3114 Java SATARaidユーティリティのインストール(n250a-FRのみ)

Silicon Image 3114 Java SATARaidユーティリティはボーナスパックCDのオートランメニューからインストールできます。



6.10 JAVA 2 Runtime Environmentのインストール (n250a-FRのみ)

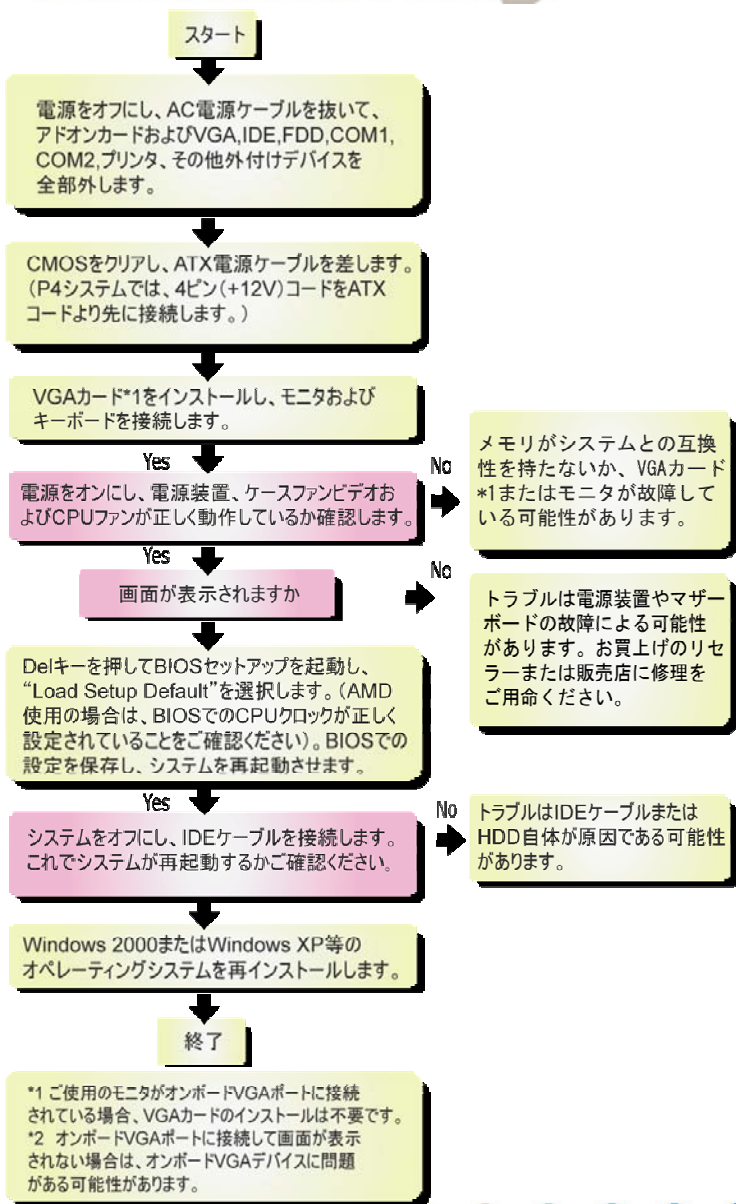
Java 2 Runtime EnvironmentがSATARaid GUIに必要とされます。これはボーナスパックCDのオートランメニューからインストールできます。



7章 トラブルシューティング



TroubleShooting

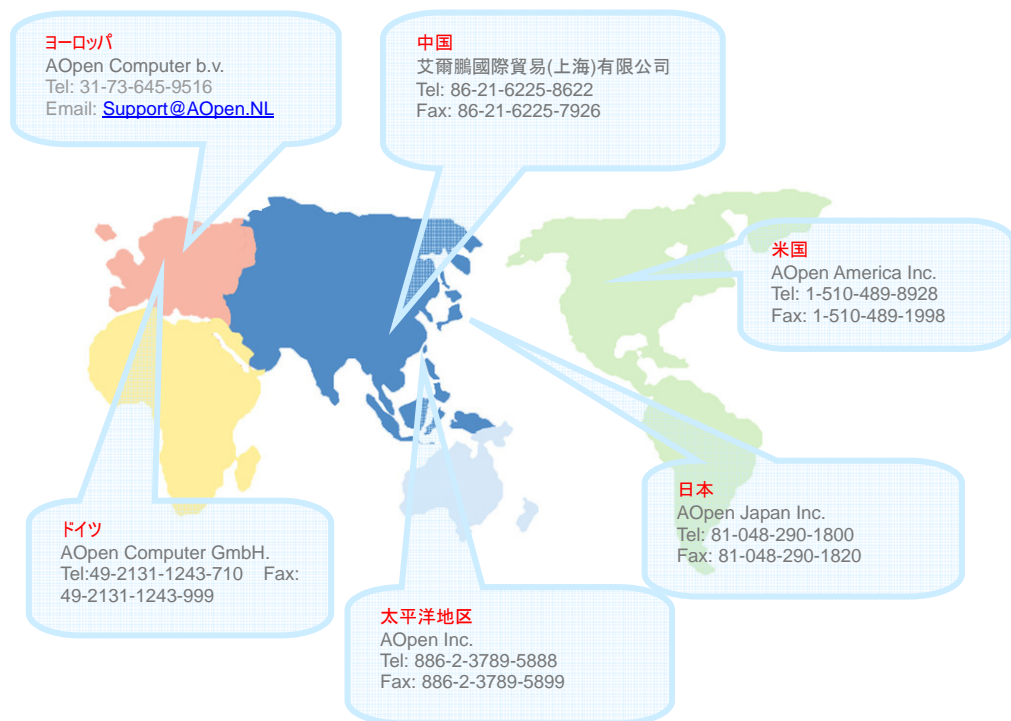


8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ、

AOpen 製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を <http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpen のゴールドメンバーとなり、以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様は質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。ご協力に感謝いたします。

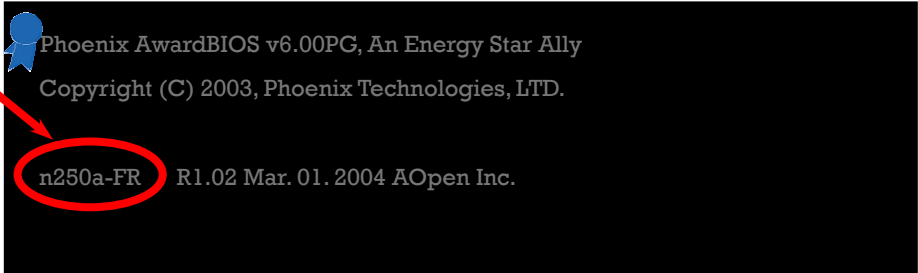
AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Eメール: Support@AOpen.NL
太平洋地区: <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>
中国: <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>
ドイツ: <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>
米国: <http://usa.aopen.com/tech/default.htm>
日本: <http://www.aopen.co.jp/tech/default.htm>

型式名およびBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンはシステム起動時の画面 (POST 画面)の左上に表示されます。以下が一例です。



n250a-FRがマザーボードの型式名で、R1.02がBIOSバージョンです。

お買い上げのマザーボードの登録

AOpen 製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。お買い上げのマザーボードは <http://club.aopen.com.tw/productreg/> から登録いただきますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシニングームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。 形式名、パーツ番号(P/N)、シリアル番号(S/N) およびお買上げ日。 パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



パーツNo.

シリアルNo.

P/N: 91.88110.201はパーツ番号で、S/N: 91949378KN73はシリアル番号です。

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ	
ビープ音	ビープ音
1 短音(ビープ)	1 短音(ビープ)
1 長音 - 1短音(ビープ)	1 長音 - 1短音(ビープ)
1長音- 2短音(ビープ)	1長音- 2短音(ビープ)
1長音- 3短音(ビープ)	1長音- 3短音(ビープ)
長音(ビープ)の連続	長音(ビープ)の連続



Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログインに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイーゼインストールガイドはAOpenボーナスパックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/report/default.htm>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ(よく尋ねられる質問)が列挙されています。ログインに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てみます。

<http://club.aopen.com.tw/faq/>

ソフトウェアのダウンロード：ログインに必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログインしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。